

横須賀共済病院

内科専門医研修プログラム

内科専門医研修プログラム・・・・・・・・・・ P.1

専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・ P.16

専門研修施設群・・・・・・・・・・ P.17

別表 1 週間スケジュール

別表 2 各年次到達目標

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』

『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院である横須賀共済病院を基幹施設として、神奈川県横須賀・三浦医療圏、東京都及び近隣医療圏にある大学病院を含む連携施設・特別連携施設とで、内科専門研修を経て地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として神奈川県全域を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム研修施設群での3年間（基幹施設1年間以上＋連携・特別連携施設6か月間以上）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャリティ分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

1) 内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民へ生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院である 横須賀共済病院を基幹施設として、神奈川県横須賀・三浦医療圏、東京都及び近隣医療圏にある大学病院を含む連携施設・特別連携施設とで、内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は3年間（基幹施設1年間以上+連携・特別連携施設6か月間以上）になります。
- 2) 本プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々に患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である横須賀共済病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 本プログラム研修施設群での専門研修（専攻医）2年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。（別表2「各年次到達目標」参照）
- 5) 本プログラム研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年間のうち2年目から3年目の6か月間以上、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 本プログラム研修施設群での専門研修（専攻医）3年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。（別表2「各年次到達目標」参照）

専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、高い倫理観を持ち、最新の標準的医療を実践し、安全な医療を心がけ、プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- 〈1〉 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 〈2〉 内科系救急医療の専門医
- 〈3〉 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 〈4〉 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形式やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

本プログラム研修施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズム涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、神奈川県横須賀・三浦医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャリティ領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本プログラム研修施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記1)～7)により、本プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年8名とします。

- 1) 横須賀共済病院内科専攻医は、大学と併せて現在20名で1学年約5名の実績があります。
- 2) 剖検体数は、2024年度5体、2025年度9体です。
- 3) 膠原病・リウマチ領域は、2025年度より入院での診療を開始しました。代謝、内分泌領域の入院患者が少なめですが、外来患者診療を含め、1学年8名に対し十分な症例を経験可能です。

表. 横須賀共済病院診療科別診療実績

2025年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1,983	31,068
循環器内科	3,307	33,071
内分泌・糖尿病内科	261	13,144
腎臓内科	521	13,290
呼吸器内科	1,106	26,043
脳神経内科	453	9,054
血液内科	708	12,531
膠原病・リウマチ科	106	3,537
救急科	1,284	17,147

- 4) 8領域の専門医が1名以上在籍しています。(P.17「横須賀共済病院内科専門研修施設群」参照)
- 5) 1学年8名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 研修する連携施設・特別連携施設は、33施設あり専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 7) 専攻医3年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも56疾患群、160症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準4】〈「内科研修カリキュラム項目表」参照〉

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態

生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2) 専門技能【整備基準 5】〈「技能・技術評価手帳」参照〉

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。

さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャリティ専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8-10、16】（別表 2「各年次到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは、以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1年：

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約の 10 症例以上を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年：

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年：

- ・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160

症例以上（外来症例は1割まで含むことができる）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。

- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修（専攻医）2年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会査読委員による査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。
また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70疾患群中の56疾患群以上で計160症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

本プログラム研修施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準13】（別表1 週間スケジュール（例）参照）

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくはサブスペシャリティ上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽する。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 初診を含む診療科外来を、担当医として少なくとも週1回、1年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救急外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、サブスペシャリティ診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

内科領域の救急対応、最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、標準的な医療安全や感染対策に関する事項、医療倫理・医療安全・感染防御・臨床研究や利益相反に関する事項、専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法等で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を受講（基幹施設 2025 年度実績 5 回）
※内科専攻医は年 2 回以上受講します。
- ③ CPC へ参加（基幹施設 2025 年度実績 6 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンスへ参加（開催予定）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンスへ参加（開催予定）
- ⑥ JMECC（内科救急講習会）を受講（2025 年度開催実績 1 回）
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学会へ参加（下記「7.学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ その他各種指導医講習会を受講

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、達成度の指標となる到達レベルが A,B,C というグレードとして設けられており、各項目達成度を明確にするため、「知識」、「技術・技能」、「症例」として分類されている。

【知識に関する到達レベル】

- A：病態の理解と合わせて十分に深く知っている
- B：概念を理解し、意味を説明できる

【技術・技能に関する到達レベル】

- A：複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる
- B：経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる
- C：経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる

【症例に関する到達レベル】

- A：主担当医として自ら経験した
- B：間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）
- C：レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法等で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある多肢選択テスト（MCQ；Multiple-Choice Question）
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、以下を Web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断

した場合に承認を行います。

- ・指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、本プログラム研修施設群とは別の日本内科学会査読委員によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は本プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。
- ・上記の研修記録と評価について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握することができます。担当指導医、研修委員会、ならびに本プログラム管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・専攻医の症例経験入力日時と指導医の評価日時の差を計測することによって担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタすることができます。担当指導医、研修委員会、ならびに本プログラム管理委員会は専攻医の研修状況のみならず、担当指導医の指導状況や、研修施設群での研修状況の把握を行い、プログラムの改善に役立てることができます。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会は研修施設群の専攻医の研修状況を把握し、プログラムの妥当性を検証することができます。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

本プログラム研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した。（P.17「横須賀共済病院内科専門研修施設群」参照）

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である横須賀共済病院 臨床研修管理部が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

本プログラム研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM；evidence based medicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする。（生涯学習）
- ④ 診断や治療のevidenceの構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

本プログラム研修施設群は基幹病院、連携施設のいずれにおいても、下記①～④を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します。(必修)

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC 及び内科系サブスペシャリティ学会の学術講演会・講習会を推奨します。

② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。

④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者2件以上行います。

なお、専攻医が社会人大学院などを希望する場合でも、本プログラムの修了認定基準を満たせるようバランスを持った研修を推奨します。

8. 医師としての倫理性・社会性の研修計画【整備基準 7】

本プログラム研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、サブスペシャリティ上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与え、内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である横須賀共済病院 臨床研修管理部が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

① 患者とのコミュニケーション能力

② 患者中心の医療の実践

③ 患者から学ぶ姿勢

④ 自己省察の姿勢

⑤ 医の倫理への配慮

⑥ 医療安全への配慮

⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）

⑧ 地域医療保健活動への参画

⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩ 後輩医師への指導

※教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【設備基準 11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。

本プログラムは、神奈川県横須賀・三浦医療圏内の医療機関と東京都及び近隣医療圏にある大学病院を含む、連携施設・特別連携施設から構成されています。

横須賀共済病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディジェズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、横須賀共済病院とは異なる環境で、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、高次医療、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、構成しています。

特別連携施設での研修は、横須賀共済病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を持って行います。横須賀共済病院の担当指導医が、特別連携施設の上級医とともに専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

本プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・退院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

さらに、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

研修期間：3年間（基幹施設1年間以上+連携施設・特別連携施設6か月間以上）

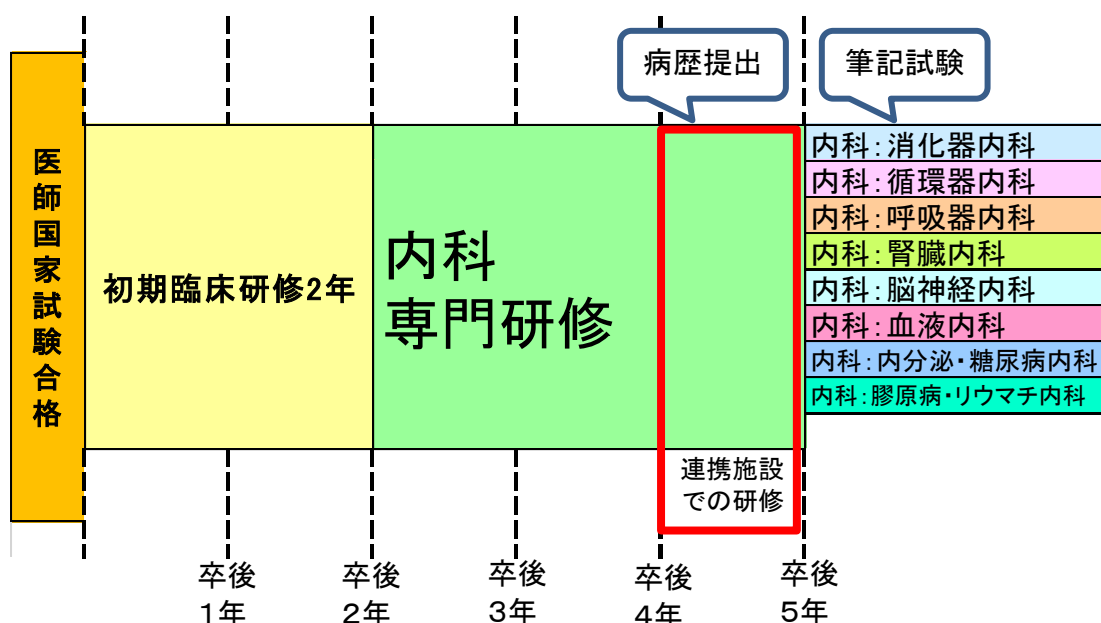


図1.横須賀共済病院内科専門研修プログラム（概念図）

研修期間3年間のうち1年間以上、基幹施設である横須賀共済病院で専門研修を行います。

専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、研修施設を調整し決定します。開始・終了時期、継続性を問わず6か月間以上、連携施設・特別連携施設で研修を行います。（図1）

なお、研修達成度によってはサブスペシャリティ研修も可能です。（個々人により異なります）

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19–22, 42】

(1) 横須賀共済病院 教育研修センター 臨床研修管理部 の役割

- ・本プログラム管理委員会の事務局を行います。
- ・本プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3 か月ごとに日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また各カテゴリー内病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・臨床研修管理部は、メディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価) を毎年複数回行います。担当指導医、サブスペシャルティ上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修管理部もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録します (他職種はシステムにアクセスしません)。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット (施設実地調査) に対応します。

(2) 専攻医と担当指導者の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医が本プログラム研修委員会により決定されます。
- ・専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年目専門研修修了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修修了時に 70 疾患群のうち 45 疾患、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) での専攻医による症例登録の評価や臨床研修管理部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。
専攻医はサブスペシャルティの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルティの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。

- ・担当指導医はサブスペシャリティの上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修2年修了時までには29症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は、専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

（3）評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設、特別連携施設の内科研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに本プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

（4）修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容の評価し、以下 i) ～vi) の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができる）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録済み。（別表2「各年次到達目標」参照）
 - ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形式的評価後の受理（アクセプト）
 - iii) 所定の2編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いたメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と、指導医による内科専攻医評価をふまえた社会人である医師としての適性
- 2) 本プログラム管理委員会では、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に本プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」【整備基準 46】、「指導医による指導とフィードバックの記録」【整備基準 47】、「指導者研修計画（FD）の実施記録」【整備基準 48】は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

なお、「横須賀共済病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「横須賀共済病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】については別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37-39】

(P.16「横須賀共済病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

本プログラムの管理運営体制の基準

- 1) 本プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
本プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科サブスペシャリティ分野の研修指導責任者および連携施設担当員で構成されます。
- 2) 本プログラム研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに研修委員会を設置します。委員長1名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年10月と3月に開催する本プログラム管理委員会の委員として出席します。
基幹施設、連携施設ともに、毎年4月20日までに、本プログラム管理委員会に以下の報告を行います。
 - ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1ヶ月あたり内科外来患者数、e) 1ヶ月あたり内科入院患者数、f) 剖検数
 - ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数 / 総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受入れ可能人数
 - ③ 前年度の月学術活動
 - a) 学会発表、b) 論文発表
 - ④ 施設状況
 - a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書室、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECC の開催
 - ⑤ サブスペシャリティ領域の専門医数
日本内科学会総合内科専門医 22 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、
日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、
日本循環器病学会循環器専門医 7 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名、
日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名
日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導医の手引き」（仮称）を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

基幹施設での研修中は横須賀共済病院での就業環境に、連携施設もしくは特別連携施設での研修中は、

その施設での就業環境に基づき、就業します。(P.17「横須賀共済病院内科研修施設群」参照)

【基幹施設である横須賀共済病院の就業規則】

〈勤務時間〉 8：30～17：15

〈休暇〉 有給休暇、夏季休暇、年末年始休暇、その他

※健康管理については、健康診断（年2回）、ワクチン接種あります。

【基幹施設である横須賀共済病院の整備状況】

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ・ハラスメント委員会が整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・近傍に院内保育所があり、利用可能です。

本プログラム研修施設群の各研修施設の状況については、(P.17「横須賀共済病院内科専門施設群」参照)

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は本プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48－51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、および本プログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立っています。

2) 専攻医からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

研修施設の研修委員会、本プログラム管理委員会、および日本専門機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、本プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、本プログラム研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の研修委員会、本プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、本プログラムが円滑に進められているか否かを判断して本プログラムを評価します。
- ・担当指導医、各施設の研修委員会、本プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委

員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立っています。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立っています。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

横須賀共済病院 臨床研修管理部と本プログラム管理委員会は、本プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて本プログラムの改良を行います。

本プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラムへの応募者は、臨床研修管理部 宛に所定の形式の「横須賀共済病院内科専門研修プログラム応募申請書」および履歴書を提出してください。申請書は、当院ホームページよりダウンロードできます。書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に通知します。応募者および選考結果については本プログラム管理委員会において報告します。

<問い合わせ先> 横須賀共済病院 教育研修センター

E-mail : kyoiku2@ykh.gr.jp TEL : 046-822-2710 (内線 7656)

ホームページ : <https://ykh.kkr.or.jp>

本プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

【整備基準 33】

- 1) やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて本プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、本プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから本プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から本プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに本プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

- 2) 疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしており、かつ休職期間が6か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを

超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務時間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします。）を行なうことによって、研修実績に加算します。

また、留学期間は、原則として研修期間として認めません。

- 3) 研修の中断の検討を行う際には、研修管理委員会は当該専攻医及び研修指導関係者と十分話し合い、当該専攻医の専門研修に関する正確な情報を十分に把握します。また、専門研修を再開する場所（同一の病院で研修を再開予定か、病院を変更して研修を再開予定か。）についても併せて検討します。研修管理委員会は、当該専攻医がそれまでに受けた研修に係る当該専攻医の評価を行い、当該専攻医が本研修プログラムでの研修を継続することが困難であると認める場合には、統括責任者に対し、当該専攻医の専門研修を中断することを勧告します。
- 4) 専攻医が以下の一に該当する場合には、本研修プログラム管理委員会は専攻医に対し、プログラムの中断を命ずることがあります。
 - ① 勤務実績がよくない場合
 - ② 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
 - ③ 公序を乱す行為があった場合
 - ④ 死亡又は行方不明となったとき
 - ⑤ その他職務に必要な適格性を欠く場合

19. 専門研修指導医【整備基準 36】

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

〈必修要件〉

1. 内科専門医を取得していること。
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告を含む）を公表している（「first author」もしくは「corresponding author」であること）。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

〈選択とされる要件（下記の①、②いずれかを満たすこと）〉

- ① CPC、CC、学術集会（医師会を含む）などへ主導的立場として関与・参加すること。
- ② 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読、JEMCCのインストラクターなど）

これら「必修要件」と「選択とされる要件」を満たした後、全国の各プログラム管理委員会から指導医としての推薦を受ける必要があります。この推薦を踏まえて e-test を受け、合格した者を **新・内科指導医として認定します。**

※但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分あれば、内科指導医へ移行を認めます。また、移行期における指導医の引き抜きなどの混乱を避けるために、現行の日本内科学会の定める指導医については、これまでの指導実績から、移行期間（2027年まで）においてのみ指導医と認めます。

横須賀共済病院内科専門医研修プログラム管理委員会

(令和8年4月現在)

横須賀共済病院

プログラム統括責任者・副院長・血液内科部長
研修委員会委員長・プログラム管理者・消化器内科部長
循環器内科部長
呼吸器内科部長
腎臓内科部長
脳神経内科部長
内分泌・糖尿病内科部長
膠原病・リウマチ内科部長
化学療法科部長

連携施設・特別連携施設

総合病院土浦協同病院	JAとりで総合医療センター
秀和総合病院	草加市立病院
総合病院国保旭中央病院	柏市立柏病院
九段坂病院	虎の門病院
JCHO 東京山手メディカルセンター	同愛記念病院
東京都立墨東病院	東京共済病院
東京都立広尾病院	新渡戸記念中野総合病院
東京都立大塚病院	東京都立豊島病院
青梅市立総合医療センター	立川病院
武蔵野赤十字病院	東京都立多摩総合医療センター
国立病院機構 災害医療センター	東京科学大学病院
済生会横浜市東部病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
横浜南共済病院	横浜市立大学附属病院
衣笠病院	聖ヨゼフ病院
横須賀市立総合医療センター	平塚共済病院
横浜市立みなと赤十字病院	静岡市立清水病院

特別連携施設

三浦市立病院

横須賀共済病院内科専門研修施設群

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必修です。本プログラム研修施設群は神奈川県横須賀・三浦医療圏、東京都及び近隣医療圏から構成されています。

横須賀共済病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院です。ここでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。

地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援を積極的に行っています。さらに、地域支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療から、がん診療そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、神奈川県横須賀・三浦医療圏だけでなく、東京都及び近隣医療圏の病院で構成しています。

横須賀共済病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域に根ざした医療、地域医療包括ケア、在宅ケアなどを中心とした診療経験も研修します。

東京都及び近隣医療圏の大学病院では特殊な症例などの症例経験が積み、研究的な考え方を身につけることができます。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・研修期間3年間のうち、開始・終了時期、継続性を問わず6か月間以上、連携施設で研修をします（11. 内科専攻医研修（モデル）図1）。

なお、研修達成度によってはサブスペシャリティ研修も可能です（個々人により異なります）。

- ・横須賀・三浦医療圏の病院においては、基幹施設で研修不十分となる領域（地域包括ケア・緩和ケア・膠原病等）を主に研修していただきますので、6か月間の研修としています。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

神奈川県横須賀・三浦医療圏、東京都及び近隣医療圏にある施設から構成しているため、広範囲ではありますが、公共交通機関も充実しており、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

表1.各研修施設の概要

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	横須賀共済病院	740	334	8	20	22	9
連携施設	土浦協同病院	800	286	8	19	16	8
連携施設	JAとりで総合医療センター	414	179	8	15	15	9
連携施設	秀和総合病院	350	150	8	12	9	0
連携施設	草加市立病院	380	約196	8	16	16	3
連携施設	総合病院 国保旭中央病院	989	310	12	28	24	61
連携施設	柏市立柏病院	200	120	7	9	7	0
連携施設	九段坂病院	257	44	5	6	7	1
連携施設	虎の門病院	819	479	11	55	47	15
連携施設	JHCO東京山手 メディカルセンター	418	154	8	17	16	11
連携施設	同愛記念病院	360	139	7	19	13	10
連携施設	東京都立墨東病院	729	218	9	23	34	5
連携施設	東京共済病院	350	213	10	7	11	2
連携施設	東京都立広尾病院	408	125	10	17	15	5
連携施設	新渡戸記念 中野総合病院	296	140	5	16	8	14
連携施設	東京都立大塚病院	413	135	8	17	21	2
連携施設	東京都立豊島病院	411	128	8	13	13	10
連携施設	市立青梅総合医療センター	521	200	8	20	16	9
連携施設	立川病院	450	170	9	27	21	9
連携施設	武蔵野赤十字病院	611	224	11	44	33	14
連携施設	東京都立 多摩総合医療センター	789	283	12	41	53	17
連携施設	国立病院機構 災害医療センター	455	208	8	13	15	8
連携施設	東京科学大学病院	753	254	11	128	77	10
連携施設	済生会横浜市東部病院	518	177	7	32	25	10
連携施設	横浜市立大学附属 市民総合医療センター	726	210	10	35	17	13
連携施設	横浜南共済病院	565	237	8	32	18	6
連携施設	横浜市立大学附属病院	654	166	9	83	55	27
連携施設	衣笠病院	198	88	1	3	3	0
連携施設	聖ヨゼフ病院	170	120	3	5	5	0
連携施設	横須賀市立 総合医療センター	450	175	9	12	22	4
連携施設	平塚共済病院	400	229	8	13	17	1
連携施設	横浜市立 みなと赤十字病院	624	222	11	30	20	14
連携施設	静岡市立清水病院	463	99	6	9	9	0
特別連携施設	三浦市立病院	136	67	2	1	1	0

表2.各内科専門研修施設の内科13領域 研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
横須賀共済病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
土浦協同病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
JAとりで総合医療センター	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○
秀和総合病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○	○	◎
草加市立病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
総合病院 国保旭中央病院	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
柏市立柏病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	◎	◎
九段坂病院	○	◎	○	○	◎	△	◎	△	◎	○	△	○	○
虎の門病院	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	○
JHCO東京山手 メディカルセンター	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	○	◎	◎
同愛記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○
東京都立墨東病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
東京共済病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東京都立広尾病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
新渡戸記念 中野総合病院	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎
東京都立大塚病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
東京都立豊島病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎
市立青梅総合医療センター	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
立川病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
武蔵野赤十字病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東京都立 多摩総合医療センター	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
国立病院機構 災害医療センター	○	◎	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
東京科学大学病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
済生会横浜市東部病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
横浜南共済病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
横浜市立大学附属病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
衣笠病院	◎	○	○	△	○	△	○	○	○	△	×	○	◎
聖ヨゼフ病院	◎	○	○	○	△	△	◎	△	○	○	◎	○	○
横須賀市立 総合医療センター	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
平塚共済病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎
横浜市立 みなと赤十字病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
静岡市立清水病院	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	△	◎	○	△	○	◎
三浦市立病院	◎	◎	◎	△	○	○	◎	○	◎	○	△	○	◎

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を4段階（◎、○、△、×）に評価しました。

<◎：研修できる、○：時に経験できる、△：ほとんど経験できない、×：経験できない>

基幹施設：横須賀共済病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・横須賀共済病院の専攻医として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・近傍に院内保育所があり、利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が20名在籍している。
- ・本プログラム管理委員会を設置して専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催（2025年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
(2025年度開催実績1回)
- ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準23,31】）

- ・病床数（全体）：740床、うち内科系病床：334床
- ・カリキュラムに示す内科領域13分野の総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも65以上の疾患群）について研修できる。
- ・専門研修に必要な剖検（2024年度実績5体、2025年度実績9体）である

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
- ・治験センターが設置している。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。（2025年度実績10演題）

指導責任者

渡辺秀樹

【内科専攻医へのメッセージ】

横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として急性期医療を担っています。特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。

また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。

さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。

また、地域連携病院として横須賀・三浦地区の近隣の病院から、横浜市立大学・東京医科歯科大学の関連病院などがあり、希望にあわせて連携病院での研修も行います。

当院での研修・連携病院での研修をあわせて最初の2年間での内科専門医研修に必要な症例を網羅できるようにプログラムを組み、最後の1年間はサブスペシャリティ研修が受けられるようしていきます。

かなり多忙な3年間になると思われますが、充実した経験が可能です。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医 20名
日本内科学会総合内科専門医 22名
日本消化器病学会消化器専門医 7名
日本肝臓学会専門医 5名
日本循環器学会循環器専門医 7名
日本腎臓病学会専門医 3名
日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名
日本血液学会血液専門医 3名
日本神経学会神経内科専門医 3名
日本糖尿病学会専門医 2名
日本リウマチ学会専門医 1名
日本アレルギー学会専門医 3名

外来・入院患者数

外来延患者 143,040名
入院患者 9,201名

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本腎臓病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本血液学会認定研修施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
日本透析医学会認定施設
日本呼吸器学会認定施設
日本神経学会認定医制度教育関連施設
日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設
日本心血管インターベンション学会研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

連携施設：土浦協同病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・附属の保育園（ひまわり保育園）が利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が19名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績10回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表を行っている。
- ・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

指導責任者

副院長 兼 消化器内科部長
草野 史彦

指導医数（常勤医）

19名

外来・入院患者数

外来延 371,743（うち内科 169,467）
入院延 205,245（うち内科 96,319）

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

学会認定施設（内科系）

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本臨床細胞学会施設認定、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本呼吸器学会認定施設、日本病理学会病理専門医制度認定病院、日本産科婦人科学会卒後研修指導施設指定、日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本麻酔学会認定麻酔科認定病院、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本脳神経外科学会指定訓練場所、日本内科学会認定医制度教育病院、日本腎臓学会研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本肝臓学会認定施設、日本手の外科学会認定手の外科研修施設、呼吸器外科専門医認定機構基幹施設認定、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設、日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設群認定、日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関、日本静脈経腸栄養学会認定N S T稼動施設、日本栄養療法推進協議会認定N S T稼動施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本乳癌学会関連施設認定証、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本小児神経学会小児神経専門医制度研修施設、日本放射線腫瘍学会認定協力施設、日本小児外科学会専門医制度認定教育関連施設、日本食道学会認定食道外科専門医認定施設、日本小児科学会小児科専門医研修支援施設、日本医療機能評価機構認定病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度 周産期新生児専門医暫定研修施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度 周産期母体・胎児専門医基幹研修施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則 実地修練認定教育施設

連携施設：JAとりで総合医療センター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修医用の居室がある。
- ・医師室では個人で持ち込んだパソコンでも通信できるような体制をとっており、電子媒体での文献検索が出来るように病院で契約している。また紙媒体の文献検索もできるように図書室もある。
- ・安全衛生委員会が設置され、過剰時間外勤務者などへのメンタルヘルス管理、指導を行っている。
- ・女性医師に対しては女性用当直室（シャワー完備）や保育所を設置して、安心して勤務できるように配慮している。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、神経内科、内分泌代謝内科、膠原病内科の常勤医がおり、全科にサブスペシャリティー専門医と総合内科専門医が在籍している。
- ・その他に非常勤として心療内科、総合内科医が勤務し、筑波大学の感染症専門医も週1回勤務して院内症例のコンサルテーションを引き受け、夕方に勉強会も開催している。
- ・年間の剖検数は10件前後で、年6回前後のCPCを開催している。これまで医療安全、感染の職員勉強会は年2回ずつ開催しており、専攻生も参加を義務付ける。
- ・今後は複数のプログラムに参加している専攻生が当院で研修を行うことになり、それぞれのプログラムの基幹施設との連携や合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス等も積極的に開催して、多角的な眼をもった内科専門医を養成する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

内科8分野（内分泌と代謝を分けると9分野）で総合内科専門医、指導医が常勤して指導体制は整っているが、その他の分野の症例も多く、定められた症例数を当院だけで経験することは可能であるが、補完する形での関連施設における研修を予定しており、日本内科学会が要求する基準は十分にクリアできる。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

倫理委員会が設置されており、これまでも内科サブスペシャリティー科は、認可された臨床研究を精力的に行ってきており、今後も変わることはない。医師は年1回以上の学会発表が義務付けられており、日本内科学会関東地方会も毎回演題登録を行って発表している。

指導責任者

【内科専攻医へのメッセージ】

J A とりで総合医療センターは、茨城県取手・龍ヶ崎医療圏の基幹病院としての役割を果たすべく、東京医科歯科大学と連携をとりながら診療を行っている。内科系においては、すべてのサブスペシャリティー科で専門医を配置し、各診療科とも指導体制は整っている。また救急だけでなく、回復期、生活維持期の医療体制も充実しており、1施設で全病期を理解することが出来る稀有な病院であると考えている。

指導医数（常勤医）

内科指導医8名

総合内科専門医12名

外来・入院患者数

外来患者数（2024年度実績）281,886人 内科系外来患者数142,279人

入院患者数（2024年度実績）117,593人 内科系入院患者数60,338人

経験できる疾患群

専門医がいない科においても症例は豊富にあり、非常勤医師等から専門的な教育を受けることができ、当院で日本内科学会が要求する症例は経験することができる。

経験できる技術・技能

症例の主治医、担当医となりながら、症例を受け持ち、検査、診断、治療を行いながら診療技術、技能を獲得することができると考えている。

経験できる地域医療・診療連携

病病連携、病診連携とも体制は整っており、さらに訪問看護ステーションも併設しているため、訪問診療も可能となっている。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会・認定医教育病院、日本循環器学会・認定循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション学会・認定研修関連施設

日本消化器病学会・専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会・認定指導施設

日本呼吸器学会・認定施設、日本腎臓学会・研修施設

日本高血圧学会・専門医認定施設、日本透析医学会・教育関連施設

日本神経学会・教育施設、日本認知症学会・教育施設

日本血液学会・認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構・認定研修施設

日本脳卒中学会・認定研修教育病院、日本アレルギー学会・準教育施設

日本輸血・細胞治療学会I&A

連携施設：秀和総合病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・ 給与、福利厚生（健康保険、厚生年金、健康診断など）については、当院の規則による。
- ・ 労働衛生および労災補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
- ・ ハラスメント委員会が整備されている。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるよう更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・ 保育室（キッズルームSHUUWA）が利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、院内で研修する専攻医の研修を管理している。
- ・ 定期的（毎週1回）開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深めることができる。
- ・ CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
- ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的で開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
- ・ 専攻医にJMECC受講の機会を与え、そのための時間を配慮している。
- ・ 救急の内科外来と当直医としての内科領域救急診療、更に当直医としての病棟急変等の経験を積むことができる。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ カリキュラムに定める内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・ 70疾患群のうち、各年次の到達目標に応じた疾患群について研修できる。
- ・ 専攻研修に必要な剖検数については当院で実施の他、連携施設においても補完を行う。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 倫理委員会が設置されている。
- ・ 経験症例について文献を検索して症例報告を行っている。
- ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を行っている。
- ・ 内科系学会の講演会等で学会発表を行っている。

指導責任者

泉山 肇

【内科専攻医へメッセージ】

埼玉県東部の地域医療を担う基幹病院の一つとして、きわめて活動的に医療に取り組んでいます。今までに築きあげた実績から地域住民の方々から信頼され、急性期医療、がん医療、緩和医療健診センター業務まで幅広く展開し、より専門性が高く質の高い医療を提供できる急性期対応型病院として機能しています。最新医療機器や最新電子カルテシステムも備えています。病院は全職員が快適に仕事に取り組むことができる環境にあり、医師、看護師、コメディカルスタッフが一丸となって、実りあるチーム医療を習得し、展開しています。救急医療や地域医療にも貢献し、救急患者は原則断らず、指導医の下で研修医の救急患者対応教育も積極的に行っています。

指導医数（常勤医）

日本内科学会総合内科専門医9名、日本消化器病学会消化器専門医5名、日本肝臓学会専門医4名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、日本腎臓病学会専門医4名、日本透析医学会透析専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医1名、日本アレルギー学会アレルギー専門医1名

外来・入院患者数

外来患者（2025年実績） 109,194名／うち内科61,285名
入院患者（2025年実績） 95,496名／うち内科64,256名
内科剖検数（2025年実績） 2件

経験できる疾患群

70疾患群の症例の中で、総合内科、腎臓、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、消化器、救急などの症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

内科専門医に必要な臨床技術・治療を学ぶことができる。特にプライマリ・ケアの場面で頻会に遭遇する主訴にどのように対応し、検査・治療を進めるか実際の症例に基づき幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

老人保健施設、福祉介護施設、診療所を含む地域医療システムを理解し、地域医療を実践することができる。メディカルソーシャルワーカー、地域の福祉施設など日常の診療活動で連携している内容も研修することができる。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本大腸肛門病学会関連施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定実地修練認定教育施設、日本栄養療法推進協議会・NST（栄養サポートチーム）稼動施設、日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼動施設、「栄養管理・NST実施施設」栄養管理・NST実施施設、病態栄養専門医研修認定施設、日本リウマチ学会教育施設認定など

連携施設：草加市立病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署が経営管理課にある。
- ・ハラスメント委員会が院内に設置されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が16名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績2回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については当院で実施の他、連携施設において補完もする。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会地方会で年間3題の学会発表を行っている。（2022年度実績）
- ・内科系各専門領域で年間15題の学会発表を行っている。（2022年度実績）

指導責任者

指導責任者名 石丸 剛

【指導責任者から専攻医へのメッセージ】

当院は埼玉東部医療圏の中心的な急性期病院です。同医療圏は総人口115万人（2020年）の大都市型二次医療圏でありながら人口10万人に対する医師数が全国平均の2/3と医療過疎地域であるため、一人の医師が急性期から慢性期まで幅広い疾患群を数多く経験できます。多様な症例を熟練した指導医のもとで順次経験することによって、疾患や病態に関する標準的な知識や技能を修得し、リサーチマインドの素養をも身に着けることが可能です。また、知識や技能に偏らず、患者の抱える多様な背景に応じ柔軟で全人的な医療を実践できる能力を持つ内科専門医を育成します。

指導医数（常勤医）

16名（2026年度現在）

外来・入院患者数

外来患者数 187,003人

内科系外来患者数 86,121人

入院患者数 105,656人

内科系入院患者数 55,835人

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育関連病院、日本血液学会認定血液研修施設、日本糖尿病学会教育関連施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本不整脈学会、日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設

連携施設：総合病院国保旭中央病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・法人職員として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。
- ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が28名在籍しています。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2024年度実績 医療倫理7回、医療安全9回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的で開催（2024年度実績16回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうち全疾患群（少なくとも60以上の疾患群）について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2024年度実績61体、2023年度実績51体、2022年度実績57体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績6回）しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024年度実績10回）しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2024年度実績13演題）をしています。

指導責任者：塩尻俊明

- ・旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。
- ・高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約42,000人の患者が来院し、24時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数310床で年間約9,000人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2024年度は61体に及び、毎月CPCが開催されています。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医28名、日本内科学会総合内科専門医24名
日本消化器病学会消化器専門医7名、日本肝臓学会肝臓専門医2名、
日本循環器学会循環器専門医5名、日本腎臓病学会専門医3名、
日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医1名、
日本神経学会神経内科専門医5名、日本アレルギー学会専門医（内科）2名、
日本リウマチ学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医3名、
日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医2名ほか

外来・入院患者数

外来患者48,276名（1ヶ月平均） 入院患者1,658名（1ヶ月平均）

経験できる疾患群

J-Oslerの疾患群項目表にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

J-Oslerにある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本胆道学会認定指導医制度指導施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本神経学会認定准教育施設
日本糖尿病学会教育関連施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
など

連携施設：柏市立柏病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処するため、相談窓口及び心の健康づくり計画推進体制を整備している。
- ・衛生委員会においてハラスメント防止対策に取り組み、苦情等の相談窓口を設置している。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、個別の当直室が整備されている。
- ・院内の保育施設（ひまわり保育室）が利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が9名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
開催が困難な場合には、期間施設で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。

指導責任者

小林和郎

【内科専攻医へのメッセージ】

柏市立柏病院は千葉県東葛北部に位置する200床の急性期病院です。開設者は柏市ですが、指定管理者制度により運営は公益財団法人柏市医療公社が行っています。最新の知識・技術と丁寧な治療を行うことにより、地域医療に貢献しています。すべての科の医師へ気軽にコンサルトできるアットホームな雰囲気のため、充実した研修が行えます。また女性医師も多く、女医に働きやすい環境を提供しています。各研修医がオーダーメイドのスケジュールを組めますので、希望に沿った内科専門研修が受けられます。

指導医数（常勤医）

日本内科学会総合内科専門医7名、日本内科学会指導医7名、日本呼吸器学会専門医2名、日本消化器病学会専門医4名、日本消化器病学会指導医2名、日本肝臓学会専門医3名、日本肝臓学会指導医2名、日本消化器内視鏡学会専門医4名、日本消化器内視鏡学会指導医2名、日本循環器学会専門医4名、日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、認定医2名、日本糖尿病学会専門医1名、日本糖尿病学会指導医1名、日本腎臓学会指導医1名、専門医1名、日本透析学会専門医1名

外来・入院患者数

外来患者数(延)127,840名（2025年度）、入院患者(延)50,471名（2025年度）
内科系外来患者数(延)61,638名（2025年度）、入院患者(延)29,340名（2025年度）

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

学会認定施設（内科系）

日本糖尿病学会認定教育関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本内科学会認定医制度教育施設、日本肝臓学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設

連携施設：国家公務員共済組合連合会 九段坂病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院であり、研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が6名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績1回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、全ての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・東京科学大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能である。
- ・臨床倫理委員会が設置されている。
- ・臨床試験管理センターが設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表を行っている。
- ・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

指導責任者

【内科専攻医へのメッセージ】

当院は、都心にありながら皇居のお堀に面しているため緑が多く、患者の療養環境にも非常に良い立地となっています。医師としての人格を涵養し、医学・医療の果たすべき社会的役割を意識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけるものとする。また、中規模病院ながら、都心の地域医療をあわせて担っていることが特徴である。内科の常勤医は8名（指導医5名）で、消化器・呼吸器・代謝内分泌・脳神経のほか内科全般にわたり研修を行える環境にあります。中規模病院なので診療科間のコミュニケーションは良く、他科コンサルなどのやり取りは、非常にスムーズに行えます。医師のみならず、パラメディカルとの連携も密に図っており、非常に働きやすい環境となっていると思います。

指導医数（常勤医）

4名（非常勤2名、計6名）

外来・入院患者数

2025年度 外来患者数：27,407名（内科） 入院患者数：5,942名（内科）

経験できる疾患群

疾患群項目表にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本認知症学会認定研修施設

連携施設：国家公務員共済組合連合会 虎の門病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・虎の門病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。
- ・院内に保育施設があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催します。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科系学会において内科専攻医が筆頭演者の発表を年間で20件ほど行っています。

指導責任者

森 保道

指導医数（常勤医）

55名

外来・入院患者数

- ・外来患者数：2,570名（2024年度1日平均）
- ・入院患者数：640名（2024年度1日平均）

経験できる疾患群

- ・きわめて稀な疾患を除いて、定められた70疾患群を幅広く経験できます。

経験できる技術・技能

- ・内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

・虎の門病院分院（神奈川県）のみならず、関東近辺・東北・九州の病院と連携しており、各地域における地域医療や診療連携を経験できます。

学会認定施設（内科系）

虎の門病院内科専門研修プログラム基幹施設

日本血液学会研修認定施設

日本内分泌学会認定教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本呼吸器学会専門医制度認定施設

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

日本肝臓学会専門医制度認定施設

日本神経学会認定教育施設

日本循環器学会専門医制度研修施設

日本腎臓学会認定教育施設

日本透析医学会専門医制度認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

日本老年医学会老年科専門医研修施設

日本感染症学会認定研修施設

日本腫瘍学会認定研修施設、ほか

連携施設：東京山手メディカルセンター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 当院任期付職員（レジデント）として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。
- ハラスメント委員会が整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所はないが、専攻医が利用を希望した場合は、保育施設との提携も含め、専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- 指導医は17名在籍しています（下記）。
- 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、副統括責任者4名（院長補佐、診療科部長で構成）、プログラム管理者（総合研修診療部長）（ともに総合内科指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と総合診療研修部（2017年度予定）を設置します。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPC を定期的で開催（2015年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：新宿肺感染症研究会、新宿CRC、リウマチ肺研究会、東京インフェクションカンファレンス、区西部地域救急会議、城西消化器研究会、東京山手メディカルセンター・JR東京総合病院合同消化器研究会；2015年度実績24回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2014年度開催実績2回：受講者12名、2016年度開催実績1回：受講者6名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 日本専門医機構による施設実地調査に総合診療研修部が対応します。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうち59疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2015年度実績13体、2014年度実績5体、2013年度10体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室，などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015年度実績12回）しています。
- ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015年度実績12回）しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績9演題）をしています。

指導責任者

【内科専攻医へのメッセージ】

当院内科は総勢約30名の各臓器別専門領域医師で構成され、患者数3000名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門領域で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療を提供しています。そして、高い専門性を有しつつ、その中で「総合内科」として1つの科にまとまっており、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院総合内科の大きな特徴です。総合内科として初診外来、救急診療、地域連携、研修医教育を行うとともに、地域医療・介護機関と連携し地域包括ケアの実践と、総合医マインドを持った研修医の育成に努めています。東京の中心、新宿で60年以上の長い歴史で培ってきた地域医療機関との連携を生かした、「地域密着型」の研修を行います。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医19名，日本内科学会総合内科専門医（認定医）7名（20名），日本消化器病学会消化器専門医5名，日本循環器学会循環器専門医3名，日本内分泌学会専門医1名，日本糖尿病学会専門医2名，日本腎臓病学会専門医1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医3名，日本血液学会血液専門医2名，日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本感染症学会専門医1名，日本救急医学会救急科専門医1名，ほか

外来・入院患者数

外来患者110,075名（2015年度）入院患者3,221名（2015年度）：内科実数

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある11領域、59疾患群の症例（神経、膠原病以外）を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。総合内科：地域診療・救急部門では、地域の家庭医と密な連携のもと、急性期医療から、医療介護の連携まで、地域包括ケアの実践を経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本アレルギー学会認定準教育施設
日本感染症学会認定研修施設
日本血液学会認定研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本透析医学会認定医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
日本大腸肛門病学会専門医修練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本プライマリケア連合学会認定施設
日本病院総合診療医学会認定施設
エイズ治療拠点病院
東京都災害拠点病院
など

連携施設：同愛記念病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・同愛記念病院として適切な労務環境が保障されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・院内保育施設があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科学会指導医は19名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医、委員：各診療科部長かつ指導医）が、基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と診療各科における臨床研修を管理する研修委員会が設置されています。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的に行います。
- ・地域参加型のカンファレンス(墨田連携症例検討会など) を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、神経・膠原病を除く11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学支部例会などでの積極的な学会発表をしています。（2021年度実績10演題、2022年度実績7演題、2023年度実績6演題）
- ・臨床研究にあたり、倫理委員会が設置され定期的に行っています。
- ・治験・倫理委員会が設置され、定期的に行っています。

指導責任者

手島 一陽（内科専門研修プログラム統括責任者）

【内科専攻医へのメッセージ】

同愛記念病院の歴史は、1923年(大正12年)に発生した関東大震災に際し、米国赤十字社が中心となり募集を行った義援金の一部をもとに、被災民や貧困者を救援する目的で、母体となる旧財団が設立されたことに遡ります。東京都区東部医療圏の急性期病院であり、現在も、その設立の趣旨を全うし、常に地域の要請に応えられる病院を目指しています。

本プログラムでの内科専門研修は、各科とも熱心な指導医・上級医の指導のもとで行われ、中規模病院ならではの、手技・処置の豊富さ、外科系各科・放射線科・病理科等との緊密で機動的な連携が可能な点も魅力的です。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医 19名

外来・入院患者数

外来患者 6,394名（月平均）入院患者 483名（月平均）

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携が経験できます。

学会認定施設（内科系）

臨床研修指定病院

日本内科学会認定医制度教育施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本肝臓学会専門医制度認定施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

日本呼吸器学会認定施設

日本アレルギー学会認定教育施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会教育関連施設

日本血液学会研修認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本病院総合診療医学会認定施設

日本感染症学会認定教育施設

日本医学放射線学会専門医修練機関

日本病理学会病理専門医研修施設 など

連携施設：東京都立墨東病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。
- ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、病児・病後児保育も利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医は40名在籍している。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置する。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(基本：年8回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催(基本：年6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス(区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会：年8回開催予定)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(基本：年1回)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設は東京都島嶼であり、電話やメールでの面談・Web会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できる(上記)。
- ・専門研修に必要な剖検(2019年度実績11体)を行っている。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備している。
- ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025年度実績12回)している。
- ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2025年度実績12回)している。
- ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。(2025年度実績9演題)

指導責任者

水谷 真之

【内科専攻医へのメッセージ】

東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京都区東部医療圏・近隣医療圏、東京都島嶼にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医34名、日本消化器病学会消化器専門医9名、日本肝臓学会専門医7名、日本循環器学会循環器専門医12名、日本内分泌学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医5名、日本糖尿病学会専門医0名、日本呼吸器学会呼吸器専門医6名、日本血液学会血液専門医5名、日本神経学会神経内科専門医4名、日本アレルギー学会専門医2名、日本リウマチ学会専門医4名、日本感染症学会6名、日本救急医学会救急科専門医23名ほか

外来・入院患者数

外来患者10,666名(1ヶ月平均)入院患者8,520名(1ヶ月平均)

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライ・マリケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本感染症学会研修施設など

連携施設：東京共済病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室（Up To Date契約あり）とインターネット環境がある。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。
- ・ハラスメントに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。
- ・医局、当直室、シャワー室が整備されている。
- ・院内保育所はない。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が7名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹病院に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会、CPC、地域参加型のカンファレンス、研修施設群合同カンファレンスを開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・消化器内科、循環器内科、内分泌代謝・糖尿病内科、腎臓内科、呼吸器内科、血液内科、脳神経内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、精神科の各内科系診療科で専門外来、入院診療が行われている。また、全内科診療科で総合内科、救急、感染症に対して、外来、入院診療を分担している。
- ・スタッフは、東京科学大学、東京大学からの医局所属であるが、短期の連携病院研修も適宜受け入れている。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床倫理委員会が設置されている。
- ・研修に必要な図書室、Up To Date、Dynamed、医中誌と契約している。
- ・日本内科学会あるいは同地方会、内科系各学会において演題発表、論文発表を多数行っている。

指導責任者

松尾 祐介（リウマチ膠原病センター長、膠原病・リウマチ内科部長）

【内科専攻医へのメッセージ】

当院は、日比谷線/東横線の中目黒駅もしくは山手線の恵比寿駅より徒歩7, 8分、目黒川沿いの閑静な地にあります。急性期350床、二次救急を担う公的な地域基幹病院です。診療科間での垣根は低く、相談しやすい雰囲気、スキルアップできます。大学病院や大規模病院で研鑽を積んだ指導医が、医局派遣の後期研修医の教育を長年担い続けている実績があります。制度変更に伴い、連携プログラムにて医局に所属していない後期研修医も受け入れています。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医11名、
日本消化器病学会消化器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医2名、
日本糖尿病学会専門医3名、日本内分泌学会専門医2名、
日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会専門医3名、
日本神経学会神経内科専門医2名、日本リウマチ学会専門医2名
日本透析医学会専門医3名、日本血液学会専門医1名

外来・入院患者数

内科系外来患者数：56869名、内科系入院患者数：51484名（2024年度実績）

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。


経験できる技術・技能

急性期医療が中心ではあるが、院内に緩和ケア病棟、包括ケア病棟があり、超高齢化社会のニーズに応じた地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療が中心ではあるが、院内に緩和ケア病棟、包括ケア病棟があり、超高齢化社会のニーズに応じた地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

学会認定施設(内科系)  厚生労働省臨床研修協力施設

日本内科学会教育関連施設

日本消化器病学会認定施設

日本消化器内視鏡学会専門医指導施設

日本呼吸器学会関連施設

日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会認定施設

日本内分泌学会認定教育施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本リウマチ学会教育施設

日本神経学会准教育施設

日本心身医学会専門医制度研修診療施設

日本がん治療認定機構認定研修施設

日本脳卒中学会認定研修教育病院

日本リハビリテーション医学会研修施設

日本病理学会研修登録施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本老年医学会認定施設

日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設

日本血液学会血液研修施設

連携施設：東京都立広尾病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。
- ・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（総務課担当職員）
- ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が17名在籍している。
- ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理（1回）・医療安全（4回）・感染対策（2回）講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に行い（4回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。2026年度より悉皆受講となる。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い（4回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度：3回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

また、剖検例についても定常的に専門研修可能である。（2025年度：5症例）

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。内科系学会の発表総数は52演題。卒後3～6年目の内科専門研修（旧制度含む）中の医師が筆頭の演題は13演題。

指導責任者

田島 真人

【内科専攻医へのメッセージ】 広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。また2023年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修も行うことが可能です。

指導医数（常勤医）

日本消化器病学会専門医1名,日本肝臓学会専門医0名
日本循環器学会専門医9名,日本内分泌学会専門医3名
日本糖尿病学会専門医3名,日本腎臓病学会専門医3名
日本呼吸器学会専門医2名,日本血液学会専門医0名
日本神経学会専門医2名,日本アレルギー学会専門0名
日本リウマチ学会専門医1名,日本感染症学会専門医1名
日本老年医学会専門医0名
(2025年度末時点)

外来・入院患者数

外来患者 51,068名

入院患者 33,101名

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本内分泌学会認定教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経学会准教育施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本救急医学会指導医専門医指定施設 ほか

連携施設：新渡戸記念中野総合病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・新渡戸記念中野総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・専攻医の安全および衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じています。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就業規則等に従います。
- ・メンタルストレスについては、精神科にて適切に対処することができます。
- ・ハラスメント委員会が労働安全衛生委員会に付置されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・近隣（歩3分）の中野クリニック内に保育所（きっずはうすMOMO）があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が16名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会：統括責任者（腎臓内科部長）が基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。
- ・医療安全・感染対策・医療倫理の講習会を定期的で開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。
- ・内科ICD 1名と専従のICN 1名がおり、感染症専門医（感染対策委員会外部委員）を交えた多職種ICTによる週1回の院内ラウンド（AST）を実施し院内感染対策に力を入れています。
- ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。2021年度実績11回、2022年度実績11回（Web開催含むHybrid）、2023年度7回、2024年度4回、2025年度9回。
- ・地域参加型カンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に新渡戸記念臨床研修管理室が対応します。
- ・特別連携施設（中野クリニック、上落合おばたクリニック）は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能で、週1回の新渡戸記念中野総合病院での面談・内科カンファレンス、抄読会などにより指導医が研修指導を行います。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち12分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうち少なくとも50以上の疾患群について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績14体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・脳神経病理も含めて開催されるCPCでは、臨床と基礎研究をつなぐリサーチマインドが涵養されます。（2021年度開催実績11回、2022年度11回、2023年度7回、2024年度4回、2025年度9回）
- ・臨床研究に必要な図書室、病理写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的を開催しています。
- ・治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
- ・日本内科学会地方会に年間で3題の学会発表を行っています。（2025年度実績）
- ・内科系学会で年間19題の学会発表を行っています。（2025年度実績）

指導責任者 野田 裕美

新渡戸記念中野総合病院は90年以上にわたり、地域に根ざした急性期医療を実践してきた東京都指定2次救急病院であり多彩な症例を経験することができます。当院は新内科専門医制度の「新渡戸記念内科専門研修プログラム」の基幹施設（認定番号 117130033）として内科専門研修を行っています。腎臓内科・脳神経内科・循環器内科・消化器内科・血液内科など各領域の専門医・指導医のレベルが高く各分野の最新のエビデンスに基づいた治療について指導を受けることができます。また各分野の垣根がなく、各分野の医師の間の連携がとても良く、各領域の専門治療をスムーズに共有できるということも当院の特徴です。さらに当院の内科は一つの医局として全員が総合内科的視点を持ち内科診療を行っています。各科毎に細分化したローテーションを行うのではなく総合診療科の体制となっています。高度の専門治療を要する疾患以外については、救急搬送時の対応、診断、入院治療、退院、外来通院まで各領域の専門医と話し合いながら切れ目なく主治医として担当するため実践的な能力を高めることができます。

新渡戸記念内科専門研修プログラムではCPC参加を必須とし、研修修了の要件として重要な研修項目に位置付けています。当院は地域医療の中核を担っているため病理解剖の承諾率も高く、CPCも学術的に高いレベルで行われています。東京科学大学などの第一線の研究者や専門医、また近隣の診療所の医師も参加され活発な討議が行われており、基礎研究と臨床をつなぐリサーチマインドが涵養されます。司会を担当する専攻医と研修医は、担当症例の臨床・病理の予習を行ってdiscussionに参加し、知見を深めるのみならず病態解析力と臨床的な洞察力を養うことができます。さらに連携施設である大学病院ではより専門的診療や稀少疾患を中心とする診療を研修することで、臨床研究や基礎研究等の学術活動の素養を修得します。一方、特別連携施設の診療所では透析などの慢性期医療や地域包括ケア、在宅医療など社会的背景を考慮した地域に根ざした診療の研修ができます。専攻医の将来の選択肢が広がるような、地域医療にもgeneralistとして貢献できる能力を獲得できます。主治医として救急搬送時から入退院、外来通院まで診断・治療の流れを研修することにより、一人一人の患者の全身状態のみならず社会的背景・療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践できる能力を獲得することができます。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科専門医8名

日本消化器病学会消化器病専門医3名・指導医1名

日本肝臓学会肝臓専門医4名・指導医2名

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医2名（+外科2名）・指導医1名（+外科2名）

日本神経学会神経内科専門医3名・指導医1名

日本認知症学会専門医1名・指導医1名

日本腎臓学会腎臓専門医5名・指導医3名・評議員1名

日本透析医学会専門医4名・指導医3名

日本血液学会血液専門医1名・指導医1名

外来・入院患者数

(2025年度実績)

外来患者数	120,410人
内科系外来患者数	43,973人
入院患者数	75,255人
内科系入院患者数	42,298人

経験できる疾患群

J-OSLER（疾患群項目表）に記載されている領域・疾患群の症例を幅広く経験することが可能です。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療、地域に根ざした病診連携を経験できます。また各分野の専門医・指導医のレベルが高く、各分野の最新のエビデンスに基づいた治療について指導を受けることができます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
内科専門医制度基幹施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経学会認定教育施設
日本認知症学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本循環器学会循環器研修関連施設

連携施設：東京都立大塚病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 東京都立病院機構任期付病院職員として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務グループ）があります。
- 病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能です。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- 指導医は17名在籍しています（下記）。
- 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器内科部長）、プログラム管理者（消化器内科部長、腎臓内科部長）、ともに総合内科専門医かつ指導医）；基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置して臨床研修委員会の下部組織とします。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2020年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPC を定期的に行う（2024年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンス（2019年度実績：医療連携医科講演会6回、救急合同症例検討会1回。2020年度は開催なし）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2024年1回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（実施時期は未定）が対応します。
- 特別連携施設（都立松沢病院、都立神経病院、東京都島嶼等）の研修では、電話やメールでの面談・Webカンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2025年度見込6体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2020年度実績12回）しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2020年度実績12回）しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2018年度実績7演題、2019年度実績2演題）を予定しています。

指導責任者

倉田 仁

【内科専攻医へのメッセージ】

都立大塚病院は、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院であり、区西北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医 17名、日本内科学会総合内科専門医 21名、
日本消化器病学会専門医 5名、日本肝臓学会専門医 3名、
日本循環器学会専門医 2名、日本糖尿病学会専門医 3名、
日本腎臓病学会専門医 3名、日本呼吸器学会専門医 2名、
日本血液学会専門医 2名、日本神経学会専門医 4名、
日本アレルギー学会専門医 1名、日本リウマチ学会専門医 7名ほか。

外来・入院患者数

2024年度実績 外来患者 55,359名
入院患者 2,517名

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析学会教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会専門医准教育施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

連携施設：東京都立豊島病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都立病院機構任期付病院職員として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署(職員相談室)がある。病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が13名在籍している(下記)
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2024年度実績：医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンス(2024年度実績1回)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・C P Cを定期的で開催(2024年度実績6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療し

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計6演題以上の学会発表(2024年度実績2演題)を予定している。

指導責任者

藤ヶ崎 浩人

【内科専攻医へのメッセージ】

地方独立行政法人東京都立病院機構都立豊島病院は東京都区西北部の中心的な急性期病院の一つです。近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と共同して内科専門研修を行い、地域医療に貢献できる内科専門医を育成します。当院の研修の特徴は、他施設に比べ技術習得の機会が多いため今後のサブスペシャリティを目指す上で有利です。また看護師、検査技師等のコメディカル、各科、各部署との連携が取りやすく医療が円滑に行われています。主担当医として入院から退院まで自主性が求められますが、必要に応じて上級医が細かく指導し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医に成長することが可能です。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医13名、日本内科学会総合内科専門医13名、
日本消化器病学会専門医 1名、日本肝臓学会専門医 2名、
日本循環器学会専門医 3名、日本内分泌学会専門医 1名、
日本糖尿病学会専門医 1名、日本腎臓病学会専門医 1名、
日本呼吸器学会専門医 4名、日本血液学会専門医 1名、
日本神経学会専門医 2名、日本アレルギー学会専門医 2名、
日本リウマチ学会専門医 0名、日本感染症学会専門医 2名、
日本老年医学会専門医 1名、ほか。

外来・入院患者数

2024年度外来患者1ヶ月平均 総12,856名（うち内科3,247名）

2024年度入院患者1ヶ月平均 総7,191名（うち内科2,068名）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本呼吸器学会認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本感染症学会研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本輸血細胞治療学会 I & A 認証施設
東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本神経学会専門医制度准教育施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本老年医学会認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本超音波医学会専門医研修施設

連携施設：市立青梅総合医療センター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・青梅市非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。
- ・ハラスメント委員会が青梅市役所に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・隣接する敷地に病院保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医は20名在籍しています。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・基幹施設で企画される研修施設群合同カンファレンスに、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を年6回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（西多摩地域救急医療合同カンファレンス、西多摩医師会共催内科症例勉強会、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病研究会、糖尿病内分泌研究会、脳卒中連携研究会など）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2022年度9体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2022年度実績6演題）をしています。

指導責任者

栗原 顕

【内科専攻医へのメッセージ】

市立青梅総合医療センターは、東京都西多摩医療圏の中心的な急性期、3次救急病院です。山岳部を抱え、核家族化による高齢者一人身世帯、都区内の後方病院、介護施設が多く、超高齢化する地方と同様の問題を抱え、急性期医療を行うと同時に地域医療を行っています。横須賀共済病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医20名，日本内科学会総合内科専門医16名
日本消化器病学会消化器専門医5名，日本肝臓病学会専門医3名
日本循環器学会循環器専門医8名，
日本糖尿病学会専門医2名，日本内分泌学会専門医1名
日本腎臓病学会専門医3名，
日本呼吸器学会呼吸器専門医3名，日本血液学会血液専門医1名，
日本神経学会神経内科専門医3名，日本アレルギー学会専門医（内科）0名，
日本リウマチ学会専門医2名，
日本救急医学会救急科専門医3名

外来・入院患者数

外来患者数（延）266,191名（年） 入院患者119,417名（年）
内科系外来患者数（延）106,264名（年） 入院患者65,539名（年）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本救急医学会指導医指定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本循環器学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会研修施設
日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設
日本リウマチ学会教育施設
日本神経学会准教育施設、日本認知症学会教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設
日本甲状腺学会認定専門医施設
など

連携施設：国家公務員共済組合連合会 立川病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・立川病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ・ハラスメント委員会が立川病院に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会指導医が27名在籍しています。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績 日本専門医機構認定共通講習会2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的で開催（2025年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（2025年度JMECC開催実績1回）。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

専門研修に必要な剖検（2025年度実績9体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2024年度実績 5演題）をしています。
- ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに、英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会があり、学術的な指導を受けることができます（2024年度内科系学会発表数44演題、英文論文9編・和文論文8編）。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。

指導責任者

森谷 和徳（副院長・内科専門研修プログラム統括責任者）

【内科専攻医へのメッセージ】

当院は東京都立川市に所在し地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・東京都地域救急医療センター・東京都CCUネットワーク・東京都脳卒中急性期医療などの高度急性期医療を提供するほか、東京都災害拠点病院・災害派遣チーム指定医療機関・東京都災害派遣精神医療登録医療機関・第二種感染症指定病院・東京都周産期連携病院・東京都精神科身体合併症医療機関・認知症疾患医療センターなどの多くの行政指定を受けており、政策的医療も牽引し東京都北多摩西部二次医療圏の中核病院としての役割を担い「大学病院に勝るとも劣らない医療水準」を目指しています。人の一生に関わるトータルケアを実践している当院は、「赤ちゃんからお年寄りまで」をモットーにしています。

全人的医療を実現するべく、あらゆる疾患に対応できるように、研修医・専攻医のみならずスタッフ医師も日々学んでいく姿勢を大事にしています。内科スタッフが協力して一人の患者さんを診療する風通しの良い体制を誇りとしています。

特に得意としている疾患は次の通りです。

<呼吸器内科>

肺がん、肺炎、喘息・COPD、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症、睡眠時無呼吸症候群

<循環器内科>

急性心筋梗塞や狭心症のカテーテル治療（東京都CCUネットワーク加盟機関）、糖尿病患者等の虚血性心疾患スクリーニング、心不全、不整脈

<消化器内科>

上部・下部消化管内視鏡手術、炎症性腸疾患、肝臓病

<脳神経内科>脳卒中、認知症（東京都認知症疾患医療センター）、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症

<血液内科>

悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫、白血球増多、血小板減少

<腎臓内科>

CKD、検尿異常から末期腎不全まで

<糖尿病・内分泌代謝内科>

糖尿病、糖尿病合併妊娠

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医27名，日本内科学会総合内科専門医21名
日本消化器病学会消化器専門医5名，日本肝臓病学会肝臓専門医3名，日本循環器学会循環器専門医5名，日本内分泌学会専門医2名，日本糖尿病学会専門医3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医4名，日本血液学会血液専門医3名，日本神経学会神経内科専門医3名，日本腎臓学会腎臓専門医3名，日本アレルギー学会専門医1名，日本感染症学会感染症専門医1名ほか（2025年度）

外来・入院患者数

2025年度実績 外来患者18,598名（1ヶ月平均）、入院患者10,822名（1ヶ月平均）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

地域医療支援病院に指定されており，高度急性期医療だけでなく，東京都北多摩西部保健医療圏の伝統と実績と信頼のある中核病院として，地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます。東京都の委託事業として，脳卒中医療連携推進協議会（事務局），地域拠点型認知症疾患医療センター，糖尿病医療連携協議会（事務局），東京都CCUネットワーク加盟機関で地域連携事業に主導的役割を果たしています。東京都周産期連携病院，MPU(精神科身体合併症病棟)も設置されており，産科，小児科，精神神経科関連の医療連携も多数経験することができます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本肝臓学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本血液学会認定研修施設
日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本認知症学会教育施設
日本てんかん学会研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
ほか

連携施設：武蔵野赤十字病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 初期臨床研修病院基幹型研修指定病院
- ・ 専攻医の研修に必要な、図書室、机、机上のインターネット環境がある
- ・ 専攻医として従来の後期研修医同様、常勤嘱託の身分になる
- ・ メンタルストレスに対応する部門があり、定期検査があり、相談も可能
- ・ ハラスメント委員会があり、種々のハラスメントに対応している
- ・ 女性医師、薬剤師、技師なども多く、女性が働き易い環境がある
- ・ 敷地内に託児所があり夜迄預ける事は可能

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 指導医は33名在籍（2019年4月時点）
- ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ CPC を定期的で開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ カリキュラムに示す内科領域13分野の全てにで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

指導責任者

第3消化器科副部長 中西 裕之

【内科専攻医へのメッセージ】

武蔵野赤十字病院は東京都の西側多摩南部地域にある、基幹病院です。

31診療科があり、内科系診療科も11あり、充実した臨床環境にあります。

本プログラムは二次医療圏の2病院、および専門領域としてがん研有明病院とも連携したプログラムで、内科系の救急医療、専門医療はもとより、地域に根ざした慢性期医療等を研修する機会もあり、幅広い内科研修が可能です。

さらに、当院は全国でも有数の研修教育病院でもあり、毎年全国からやる気のある有望な初期研修が集って来ますが、彼らを教え彼らに教えられながらさらに学びを深くする事ができます。

また、医療安全に関しては20年以上前から航空業界などを手本としたインシデントシステムを早くから取り入れる等先駆的な試みをしております。

内科系診療科は医師数が70名を超え、指導医若手医師とも多数いて、和気あいあいとした雰囲気です。楽しく臨床ができます。そのような環境では是非ご自身のスキルアップを目指して我々と一緒に臨床をやってみませんか？

指導医数（常勤医）

内科学会指導医27名、内科学会認定総合内科専門医19名、日本消化器病専門医9名、日本肝臓病学会専門医7名、日本循環器病専門医5名、日本心血管インターベンション療学会専門医3名、日本内分泌学会専門医2名、日本糖尿病専門医3名、日本腎臓病学会専門医3名、日本透析医学会専門医3名、日本呼吸学会専門医4名、日本血液学会専門医4名、日本神経学会専門医3名、日本腫瘍学会癌薬物療法専門医3名、日本リウマチ病学会専門医1名、日本感染症学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医1名、日本救急医学会専門医6名

外来・入院患者数

外来患者数 316,955名（うち内科系診療科141,024名）

入院患者数 19,988名（うち内科系診療科 8,762名）

経験できる疾患群

研修手帳に記載してある13疾患群70症例すべて経験が可能

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、地域の連携病院、診療所、在宅診療医と連携した、高齢化社会に対応して医療も経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会（認定医制度教育病院）
日本腎臓学会（研修施設）
日本透析医学会（認定医制度認定施設）
日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設
日本血液学会（血液研修施設）
日本内分泌学会（内分泌代謝科認定教育施設）
日本循環器学会（循環器専門医研修施設）
日本心血管インターベンション治療学会（研修施設）
日本超音波医学会（超音波専門医制度研修施設）
日本消化器病学会（認定施設）
日本肝臓学会（認定施設）
日本消化器内視鏡学会（指導施設）
日本呼吸器学会（認定施設）
日本呼吸器内視鏡学会（認定施設）
日本神経学会（教育施設）
日本脳卒中学会（認定研修教育病院）
日本糖尿病学会（認定教育施設）
日本救急医学会（専門医指定施設・指導医指定施設）
日本集中治療医学会（専門医研修施設）
日本精神神経科学会（研修施設）
日本静脈経腸栄養学会（NST稼働施設）（実地修練認定教育施設）
日本臨床腫瘍学会（研修施設）
日本栄養療法推進協議会（NST稼働施設）
日本リウマチ学会（教育施設）
日本がん治療認定医機構（認定研修施設）
日本不整脈・日本心電学会（不整脈専門医研修施設）
日本認知症学会（教育施設）
日本緩和医療学会（認定研修施設）
日本高血圧学会（専門医認定施設）

連携施設：東京都立多摩総合医療センター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課医事課、職員担当、医局役員)がある。
- ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医は41名在籍している
- ・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者（内科系診療科部長 1名）
- ・副プログラム統括責任者（内科系診療科医長 2名）、基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部長医長1名)（ともに総合内科専門医かつ指導医))
- ・内科専門研修プログラム委員会は、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を臨床研修管理委員会に設置する。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2025年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催(2025年度実績10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的 に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医に研修期間中のJMECC 受講(2025年度開催実績 1回:受講者 12名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域 13 全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。
- ・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023年度実績11回)している。
- ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023年度実績12回)している。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。

指導責任者

佐藤文紀

【内科専攻医へのメッセージ】東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER（一次～三次救急）での救急医療研修（必修）と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や東京都島嶼等の特別連携施設での研修を通じて、僻地を含めた地域医療の重要性と問題点を学び、また貢献できます。お待ちしております！

指導医数（常勤医）

日本内科学会総合内科専門医53名、日本消化器病学会消化器病専門医 23名、日本肝臓学会肝臓専門医 6名、日本循環器学会循環器専門医 10名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 8名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医9名、日本腎臓学会専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11名、日本血液学会血液専門医 5名、日本神経学会神経内科専門医 1名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 3名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 13名、日本感染症学会感染症専門医 3名、日本救急医学会救急科専門医21名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 6名ほか

外来・入院患者数

外来患者 417, 296名、入院患者215, 591名 延数

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患 群の症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できる。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本アレルギー学会教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設
日本内分泌代謝科学会認定教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本感染症学会研修施設など

連携病院：国立病院機構 災害医療センター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就業規則等に従う。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・院内の保育園が利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が13名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える予定である。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で内分泌分野以外では定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。
- ・糖尿病内分泌の専門医は週3回非常勤で勤務しており、内分泌領域については非常勤医師に適宜相談しながら研修することを想定している。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究が可能である。
- ・倫理委員会が設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間3題以上の学会発表を行っている。（2025年度実績）

指導責任者

大林 正人 【内科専攻医へのメッセージ】

災害医療センター内科は、3次救急病院である強みを生かした豊富な急性期症例から稀少疾患まで研修が可能です。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成するプログラムを構築しました。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医13名，日本内科学会総合内科専門医15名
日本消化器病学会消化器専門医3名，消化器内視鏡学会専門医4名
日本循環器学会循環器専門医7名
日本腎臓病学会専門医2名，
日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本血液学会血液専門医2名，
日本神経学会神経内科専門医4名，日本リウマチ学会専門医1名，
日本感染症学会専門医1名，日本救急医学会救急科専門医6名，ほか

外来・入院患者数

内科系外来患者実数名81,793（年） 入院患者4,868名（年）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

学会認定施設（内科系）

日本血液学会認定血液研修施設、
日本腎臓学会研修施設、
日本透析医学会認定医認定施設、
日本神経学会教育施設、
日本呼吸器学会認定施設、
日本呼吸器内視鏡学会認定施設、
日本消化器病学会認定施設、
日本肝臓学会認定施設、
日本循環器学会専門医研修施設、
日本心血管インターベンション学会研修施設、
日本不整脈・心電学会認定不整脈専門医研修施設、
日本輸血細胞治療学会認定指定施設、
日本内科学会認定教育施設、
日本リウマチ学会教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
など

連携施設：東京科学大学病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従います。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されています。
- ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・学内の保育園（わくわく保育園）が利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が128名在籍しています。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績6回内科系のみ）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できます。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・東京科学大学病院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能です。
- ・臨床倫理委員会が設置されています。
- ・臨床試験管理センターが設置されています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で10題の学会発表を行っています。（2022年度実績）

指導責任者

統括責任者 保田 晋助教授

【内科専攻医へのメッセージ】

東京科学大学病院内科は、日本有数の初期研修プログラムとシームレスに連携して、毎年60～90名の内科後期研修医を受け入れてきました。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。

新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成する体制を構築しました。

指導医数（常勤医）

内科指導医数128名（内：総合内科専門医77名）

外来・入院患者数

外来患者数：474,761人（2025年度 延数）

入院患者数：428,422人（2025年度 延数）

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設
日本血液学会血液研修施設
日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設
日本リウマチ学会教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本甲状腺学会認定専門医施設
日本高血圧学会認定研修施設
日本肥満学会認定肥満症専門病院
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設
日本老年医学会認定施設
日本老年精神医学会認定施設
日本東洋医学会指定研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本循環器学会循環器専門医研修施設
不整脈学会認定不整脈専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
学会認定不整脈専門医研修施設
日本脈管学会認定施設
日本呼吸器学会認定施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本神経学会認定施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
認知症学会専門医教育施設
日本感染症学会認定研修施設

連携施設：済生会横浜市東部病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 済生会横浜市東部病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。（希望があれば院内の心理士や精神科医師の受診や相談も可能です）
- ハラスメント委員会が済生会横浜市東部病院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地より徒歩10分の院内保育所が利用できます。 病児保育、病後児保育は院内で対応しています。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- 指導医は32名在籍しています（下記）。
- 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長補佐）、プログラム管理者（消化器内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専攻医研修室にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科研修委員会と専攻医研修室が設置されています。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPC を定期的で開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：2025年度実績 43回; 横浜市東部地域循環器カンファレンス（年3回）、胸部疾患研究会（年10回）、神奈川県鶴見区東部病院消化器病勉強会（年11回）、横浜東部脳卒中連携の会（年1回）、神奈川東部脳卒中連携の会（年2回）、横浜東部地区緩和ケア研究会（年4回）、横浜東部地区腎疾患カンファレンス（年1回）、糖尿病カンファレンス（年3回）、病診連携の会（年2回）、総合内科勉強会（年6回））を定期的で開催し、専攻医に必要な場合、専攻医の希望がある場合は、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年1回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修室が対応します。
- 連携病院での専門研修では、電話や週1回の済生会横浜市東部病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修状況の把握と必要があれば指導も行います。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2018年度実績15体、2019年度14体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室やインターネットでの文献検索環境、統計処理のためのコンピューター、ポスター作製のためのコピー機などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的を開催（2019年度実績4回）しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2019年度実績11回）しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計9演題以上の学会発表（2019年度実績7演題）をしています。内科学会関東地方会の幹事病院です。内科学会以外の内科専門分野の学会活動も活発で、海外の学会を含め、年間100題以上発表しています。専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。

指導責任者

比嘉眞理子

【内科専攻医へのメッセージ】

済生会横浜市東部病院は、横浜市の中核病院であり、救命救急センターなどを中心とした急性期医療や高度専門医療を中心に提供する病院です。救命救急センターと総合診療センターでは内科医が経験すべき高度な救急疾患からcommon diseaseに至るまで豊富な症例を診療しています。地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療にはサイバーナイフやロボット手術などの先進的な医療機器を備えて最新の医療を行っています。二人主治医制や連携パス導入などの病診連携にも積極的に取り組み地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える全人的医療を実践できる内科専門医を育成することを目的としています。

内科専門研修3年修了後、大学病院での勤務や大学院進学を希望する場合は、済生会横浜市東部病院が協力施設となっている、東邦大学、横浜市立大学、日本医科大学、慶應大学へ推薦することができます。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医32名、日本内科学会総合内科専門医25名

日本消化器病学会消化器専門医5名、日本循環器学会循環器専門医11名、日本内分泌学会専門医2名、日本糖尿病学会専門医6名、日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本神経学会神経内科専門医3名、日本肝臓病学会専門医4名

外来・入院患者数

外来患者 33,392名（1ヶ月平均） 入院患者 17,852名（1ヶ月平均）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本呼吸器学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
日本透析医学会認定医制度認定施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本神経学会専門医研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
日本感染症学会連携研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本高血圧学会高血圧専門医認定施設
ステントグラフト実施施設
日本認知症学会教育施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本リウマチ学会認定教育施設
日本アレルギー学会認定準教育施設
日本救急医学会指導医指定施設など

連携施設：横浜市立大学附属市民総合医療センター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。
- ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が35名在籍しています（下記）。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修やe-Learningの利用により定期開催（2019年度実績 医療倫理1回、医療安全4回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的に開催（2019年度実績13回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（2019年度実績45回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 2演題）をしています。

指導責任者

平和 伸仁

【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は2つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医35名、日本内科学会総合内科専門医17名、
日本消化器病学会消化器専門医23名、日本肝臓学会専門医5名、
日本循環器学会循環器専門医15名、日本内分泌学会専門医4名、
日本糖尿病学会専門医3名、日本腎臓病学会専門医4名、
日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医5名、
日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、
日本リウマチ学会専門医3名、日本感染症学会専門医1名、ほか

外来・入院患者数

外来患者 39,980名（1ヶ月平均） 入院患者 20,022名（1ヶ月平均延数）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本救急医学会指導医指定施設
救急科専門医指定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会認定研修施設
日本消化器病学会認定施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
非血縁者間骨髄採取認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
内分泌代謝科認定教育施設
日本東洋医学会指定研修施設
日本神経学会専門医制度認定教育施設
日本リウマチ学会教育施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
呼吸療法専門医研修施設
日本アフェシス学会認定施設
日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設
N S T 稼働施設
日本救急撮影技師認定機構実地研修施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本感染症学会研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本急性血液浄化学会認定施設
など

連携施設：横浜南共済病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。
- ・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が32名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績 安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス（金沢区CPC、消化器疾患内科・外科・病理カンファレンス、神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会、呼吸器疾患医療連携セミナーなど 各科および複数科合同で計20回程度）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2024年度実績 6演題）をしている。

指導責任者

岡 裕之

【内科専攻医へのメッセージ】

横浜南共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医32名、日本内科学会総合内科専門医18名
日本消化器病学会消化器専門医8名、日本循環器学会循環器専門医8名、
日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、
日本腎臓病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、
日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医3名、
日本アレルギー学会専門医（内科）6名、日本リウマチ学会専門医5名、
日本感染症学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医6名、ほか

外来・入院患者数

2025年度実績

外来患者 1,243.8名（1日平均患者数）

入院患者 16,409名（年間入院患者数）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本呼吸器学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本透析医学会認定医制度認定施設
日本血液学会認定研修施設
日本神経学会専門医制度認定教育施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
ICD/両室ペーシング植え込み認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
ステントグラフト実施施設
日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設
日本認知症学会教育施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
など

連携施設：横浜市立大学附属病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。
- ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が81名在籍しています（下記）。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理3回、医療安全129回、感染対策32回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的で開催（2015年度実績24回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績1回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 21演題）をしています。

指導責任者

前田 慎

【内科専攻医へのメッセージ】

横浜市立大学は2つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医81名、日本内科学会総合内科専門医49名、日本消化器病学会消化器専門医18名、日本循環器学会循環器専門医10名、日本内分泌学会専門医7名、日本糖尿病学会専門医5名、日本腎臓病学会専門医5名、日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医6名、日本神経学会神経内科専門医10名、日本アレルギー学会専門医（内科）2名、日本リウマチ学会専門医5名、日本感染症学会専門医2名、日本救急医学会救急科専門医5名、ほか

外来・入院患者数

外来患者 11,655名（1ヶ月平均） 入院患者 4,545名（1ヶ月平均延数）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本呼吸器学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本老年医学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
日本透析医学会認定医制度認定施設
日本血液学会認定研修施設
日本大腸肛門病学会専門医修練施設
日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設
日本神経学会専門医制度認定教育施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本神経学会専門医研修施設
日本内科学会認定専門医研修施設
日本老年医学会教育研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
日本東洋医学会研修施設
ICD/両室ペーシング植え込み認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本肥満学会認定肥満症専門病院
日本感染症学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本高血圧学会高血圧専門医認定施設
ステントグラフト実施施設
日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設
日本認知症学会教育施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
など

連携施設：衣笠病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・衣笠病院非常勤医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
- ・ハラスメントに対する手順が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が3名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置（予定）して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績 7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンス（2026月分年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス（2026年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績0）を予定している。

指導責任者

南 次郎

【内科専攻医へのメッセージ】

衣笠病院は神奈川県横須賀市内陸部にあり、急性期一般病棟54床、緩和ケア病棟20床、地域包括ケア病棟91床、回復期リハビリテーション病棟33床の計198床を有し、地域の医療・保健・福祉の中核的施設の一つであるコミュニティーホスピタルです。横須賀共済病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行っています。キリスト教の隣人愛を大切にしたい全人医療を行っており、心ある内科専門医の育成を目指しています。外来、病棟ともに症例は豊富であり、総合内科を満遍なく学ぶことが可能です。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医3名、日本内科学会総合内科専門医3名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本血液学会血液専門医1名

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医1名

外来・入院患者数

外来患者 7,483名（1ヶ月平均）

入院患者 5,158名（1ヶ月平均）

経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある、総合内科（一般）、総合内科（高齢者）を経験することができます。

経験できる技術・技能

上記疾患群に対応した技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

在宅医療および、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

N S T 稼働施設（日本臨床栄養代謝学会）

日本緩和医療学会認定研修施設

連携施設：聖ヨゼフ病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・非常勤医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課・看護部・産業医）がある。
- ・ハラスメントに適切に対処する部署（総務課・看護部・産業医）がある。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が3名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、膠原病（リウマチ）の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定している。

指導責任者

柴田朋彦

【内科専攻医へのメッセージ】

聖ヨゼフ病院は、開院後75年の歴史を経て2020年3月新病院に生まれ変わりました。当院では専門性にとらわれない内科診療と質の高いリウマチ診療を地域に提供しております。急性期病床のみならず地域包括ケア病床、療養病床を持っており、当院での研修では高度急性期病院から円滑に転院先を見つける際に知っておくべき各病床の特徴を理解できます。当院で研修をされる内科専修医の皆様には、指導医のもとで一般内科外来（初診・再診）と入院患者の診療を担当いただきます。入院診療は一般内科疾患がメインですが一部リウマチ・膠原病の専門疾患が含まれており、この分野の研修が同時に可能です。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医 3名、日本内科学会総合内科専門医 5名

日本リウマチ学会専門医 3名、日本総合診療特任指導医 2名 ほか

外来・入院患者数

外来患者 1,248名（1ヶ月平均） 入院患者 2,748名（1ヶ月平均）

14,986名（延患者数）全体 32,979名（延患者数）全体

経験できる疾患群

高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。

経験できる技術・技能

技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。

このとき、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院

日本リウマチ学会教育施設

日本病院総合診療医学会認定施設

連携施設：横須賀市立総合医療センター

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室がある。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が12名在籍しています。（2026年度）
- ・初期および専門医研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績 医療倫理1回、医療安全3回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催（2025年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（2025年チェストカンファレンス5回、PTLS1回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度開催実績1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
- ・臨床研究に必要な図書室、電子ジャーナル等を整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的（2025年実績12回）を開催しています。

指導責任者

岩澤 孝昌

【内科専攻医へのメッセージ】

横須賀市立総合医療センターは地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また、人材の育成や地域寮の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医12名、日本内科学会総合内科専門医22名
日本消化器病学会消化器科専門医5名、日本循環器学会循環器専門医13名
日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会認定専門医2名
日本神経学会神経内科専門医2名、日本リウマチ学会専門医1名、
日本救急医学会救急科専門医7名 ほか ※2026年度

外来・入院患者数

外来患者 176,375名（年間） 入院患者 10,647名（年間） ※2025年度実績

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本肝臓学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
日本循環器学会専門医研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会教育関連施設
日本集中治療医学会専門研修施設
日本リウマチ学会認定教育施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本救急医学会専門医研修プログラム基幹施設
など

連携施設：国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・身分について・・・平塚共済常勤、労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所が利用可能である。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科指導医が13名、総合内科専門医が17名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績 医療倫理2回、医療安全4回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加するよう専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的で開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者数が多く、週2日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。
- ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績1体）を行っている。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。
- ・臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的で開催している。

指導責任者

【内科専攻医へのメッセージ】

当院の内科病床は200床を超え、地域連携支援病院として近隣の医療機関から紹介患者を広く受入れています。当院は二次救急医療機関ですが、救急センター、心臓センター、脳卒中センターを有し、三次相当の救急患者にも対応する実質 2.5次の救急医療を実践しています。このため、内科医として経験すべき急性及び慢性疾患を一通り経験可能です。当院は神奈川県がん診療連携指定病院であり、がん診療の専門的研修も可能です。

専攻医の皆さんには、指導医の下で主担当医として入院患者を受持ち、検査～診断～治療に至る一連の診療を実践してもらいます。また、内科スタッフとして、内科救急当番・内科当直の救急業務も担ってもらいます。疾患だけを診るのではなく、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する力を養ってもらいます。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医13名、日本内科学会総合内科専門医17名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医7名、日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓学会専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医6名、日本神経学会神経内科専門医4名、日本リウマチ学会リウマチ専門医2名、ほか

外来・入院患者数

外来患者 9,117名(1ヶ月平均延数) 入院患者 6,089名(1ヶ月平均延数)

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

内科専門研修基幹施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設

日本消化管学会胃腸科指導施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション治療学会研修施設

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

日本神経学会専門医制度教育施設

日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設 I

日本内分泌学会認定教育施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会専門医制度認定施設

日本リウマチ学会教育施設

日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設呼吸器内科

N S T 稼働認定施設

日本肺癌学会教育認定施設

など

連携施設：横浜市立みなと赤十字病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・横浜市立みなと赤十字病院の常勤嘱託医として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスには労働安全衛生委員会が適切に対処します。
- ・ハラスメント防止規定に基づき委嘱された相談員がいます。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・指導医が30名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センターを設置します。
- ・医療倫理（2025年度開催実績1回）・医療安全（2025年度開催実績2回）・感染対策講習会（2025年度開催実績2回）を定期的を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンス（2026年度予定）を参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催（2025年度開催実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（みなとセミナーなど）を定期的を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度開催実績1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に医師教育研修センターが対応します。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、代謝、腎臓、血液、膠原病、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績14体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
- ・臨床倫理委員会を設置し、定期的開催（2025年度開催実績18回）しています。
- ・医療倫理委員会を設置し、定期的開催（2025年度開催実績7回）しています。
- ・臨床試験支援センターを設置し、治験審査委員会（2025年度開催実績13回）、自主臨床研究審査委員会（2025年度開催実績12回）を定期的開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2025年度実績7演題）をしています。

指導責任者

萩山裕之

【内科専攻医へのメッセージ】

当院は、横浜市の中心部である中区に立地し、近隣に山下公園、横浜中華街といった繁華街があります。地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定され、救急車の受け入れ台数は例年10,000台を超え全国でも際立つ存在となっています。またがんセンターや心臓病などのセンター化を進め、PET/CT、高機能MRI・CT、手術支援ロボット等々を整備し、横浜南部医療圏の地域医療の中核を担っています。救急医療、悪性疾患に対する集学的治療、緩和医療、地域医療機関への診療支援などを積極的に行っており、経験できる症例数は多く多彩であり、各内科系診療科の専門医・指導医が指導に当たります。内科専攻医として、救急から緩和、地域医療の幅広い研修や、各領域の専門性の高い研修が可能です。

指導医数（常勤医）

日本内科学会指導医 30名
日本内科学会総合内科専門医 21名
日本消化器病学会消化器専門医 7名
日本肝臓学会専門医 6名
日本循環器学会循環器専門医 9名
日本糖尿病学会専門医 3名
日本内分泌学会専門医 3名
日本腎臓病学会専門医 3名
日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名
日本血液学会血液専門医 4名
日本神経学会神経内科専門医 2名
日本アレルギー学会専門医（内科） 2名
日本リウマチ学会専門医 3名
日本感染症学会専門医 1名
内分泌内科・糖尿病内科領域専門医 3名

外来・入院患者数

外来患者延べ数 107,179名 入院患者数 95,019名

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定制度教育病院
日本内科学会指導医30名
日本内科学会総合内科専門医21名
日本消化器病学会消化器専門医7名
日本肝臓学会専門医6名
日本循環器学会循環器専門医9名
日本糖尿病学会専門医3名
日本内分泌学会専門医3名
日本腎臓病学会専門医3名
日本呼吸器学会呼吸器専門医5名
日本血液学会血液専門医3名
日本神経学会神経内科専門医2名
日本アレルギー学会専門医（内科）2名
日本リウマチ学会専門医3名
日本感染症学会専門医1名
日本救急医学会救急科専門医2名

連携施設：静岡市立清水病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 静岡市の正規職員としての労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（病院経営企画課）があります。
- ハラスメント調査・検討部会及び委員会が静岡市立清水病院内に設置されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

※当院は、2027年4月から指定管理者による清水厚生病院との一体的運用への移行を予定しております。医療体制につきましては、現在の当院の体制を維持する方向で調整しております。そのため、2027年度採用専攻医につきましては、指定管理者の職員として採用予定となりますので、ご留意いただきますようお願いいたします。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- 指導医が9名在籍しています。
- 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績 医療倫理1回,医療安全2回,感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、呼吸器、神経、循環器、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。

指導責任者

吉富 淳

【内科専攻医へのメッセージ】

静岡市立清水病院は静岡市清水区の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

指導医数（常勤医）

日本内科学会 9名

日本消化器病学会 4名

日本呼吸器学会 2名

日本循環器学会 1名

日本アレルギー学会 1名 ほか

外来・入院患者数

（2025年度実績）

延外来患者数 136,195名 延入院患者数 94,172名

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本アレルギー学会専門医教育研修施設

日本内科学会基幹施設

日本医学放射線学会放射線専門医修練機関

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

日本循環器学会研修施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会認定施設

日本頭痛学会認定教育施設

日本認知症学会教育施設

日本麻酔科学会連携施設

特別連携施設：三浦市立病院

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修協力施設である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・研修医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレス、ハラスメントに関して病院に衛生委員会が設置されている。三浦市役所の人事課とも必要に応じて連携。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年2回ずつ）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および救急分野で定常的な専門研修が可能な症例数を診療している。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

指導責任者

齊藤真

【内科専攻医へのメッセージ】

三浦市立病院は二次救急拠点病院であり、三浦半島地域の救急医療を担っています。

また地域密着型の病院として地域に根ざした医療を行っています。

指導医数（常勤医）

1名

外来・入院患者数

外来患者 5,223名（1ヶ月平均）

入院患者181名（1ヶ月平均）

経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、62疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携

超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）

日本消化管学会胃腸科指導施設

別表 1

横須賀共済病院内科専門研修 週間スケジュール (例)

横須賀共済病院内科専門研修プログラム P.4 4.専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

- ・下記例は、あくまでも概略になります。
- ・内科各診療科により、担当する外来、業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- ・初診を含む診療科外来を担当医として、少なくとも週1回 担当します。
- ・日当直やオンコールなどは、内科各診療科の当番として担当します。
- ・地域参加型カンファレンス、合同カンファレンス、講習会、CPC (第3水曜)、学会などは各々の開催日に参加します。

【消化器内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	上部消化管 内視鏡	外来業務	腹部超音波検査	救急当番	病棟業務	
午後	病棟回診 病棟業務 検査・処置 (内視鏡・超音波下・ 透視下等) 消化器内科カンファ レンス 抄読会	病棟業務 検査・処置 (内視鏡・超音波下・ 透視下等)	病棟業務 検査・処置 消化管造影読影 チームカンファレンス 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	救急当番	病棟業務 検査・処置 内視鏡読影会	

【循環器内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	心臓カテーテル 検査・治療 症例カンファレンス 心筋アイソトープ 検査 病棟業務	入院症例 カンファレンス 外来業務	心臓カテーテル 検査・治療 症例カンファレンス 心筋アイソトープ 検査 病棟業務	抄読会、症例検討会 入院症例 カンファレンス 外来業務	レクチャー 入院症例 カンファレンス 心筋アイソトープ 検査 病棟業務	
午後	病棟業務 外来業務(救急) 超音波研修 負荷心電図研修	病棟業務 心臓カテーテル 検査・治療	病棟業務 外来業務(救急) 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	病棟業務 心臓カテーテル 検査・治療	病棟業務 外来業務(救急) 心臓血管外科と 合同カンファレンス	

【呼吸器内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	気管支鏡検査	病棟回診 病棟業務	病棟回診 病棟業務	気管支鏡検査	気管支鏡検査	
午後	病棟業務 入院患者 カンファレンス 抄読会	病棟業務 入院患者 カンファレンス	病理カンファレンス (内科生検症例) 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	気管支鏡検査 (透視下生検が中 心)(透視室)	病理カンファレンス (外科手術症例) 呼吸器がんサ ーボード	

【腎臓内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	
午後	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践 第1週は腎生検 カンファレンス	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践 第3週は回診・腎内 カンファレンス 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の 補助及び実践 病棟回診 腎内カンファレンス 症例呈示、問題症例 検討、抄読会 第1週は透析室カン ファレンス	病棟及び透析室業 務 ICU等での出張透析 腎生検、シャント手 術 シャントPTA等の補 助及び実践	

【血液内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	病棟看護スタッフか ら申し送り 病棟回診 受持ち患者の指示 病棟処置(骨髄穿 刺、胸・腹水穿刺、 腰椎穿刺、中心静脈 カテーテル挿入等)	病棟看護スタッフか ら申し送り 病棟回診 受持ち患者の指示 病棟処置(骨髄穿 刺、胸・腹水穿刺、 腰椎穿刺、中心静脈 カテーテル挿入等)	病棟看護スタッフか ら申し送り 病棟回診 受持ち患者の指示 病棟処置(骨髄穿 刺、胸・腹水穿刺、 腰椎穿刺、中心静脈 カテーテル挿入等)	病棟看護スタッフか ら申し送り 病棟回診 受持ち患者の指示 病棟処置(骨髄穿 刺、胸・腹水穿刺、 腰椎穿刺、中心静脈 カテーテル挿入等)	病棟看護スタッフか ら申し送り 病棟回診 受持ち患者の指示 病棟処置(骨髄穿 刺、胸・腹水穿刺、 腰椎穿刺、中心静脈 カテーテル挿入等)	
午後	血液内科カンファ レンス		第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	顕微鏡カンファレ ンス 骨髄スメア標本 病理組織標本	血液内科研修医 カンファレンス	

【神経内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	病棟入院患者の診療 救急外来初期対応、 他科入院患者コンサル トの初期対応	病棟入院患者の診療 救急外来初期対応、 他科入院患者コンサル トの初期対応	病棟入院患者の診療 救急外来初期対応、 他科入院患者コンサル トの初期対応	病棟入院患者の診療 救急外来初期対応、 他科入院患者コンサル トの初期対応	病棟入院患者の診療 救急外来初期対応、 他科入院患者コンサル トの初期対応	
午後	病棟入院患者の診療 受持ち患者の電気 生理検査 指導医と脳波読影 指導医と画像検査 の読影	病棟入院患者の診療 受持ち患者の電気 生理検査 指導医と脳波読影 指導医と画像検査 の読影 回診 症例検討カンファ レンス	病棟入院患者の診療 受持ち患者の電気 生理検査 指導医と脳波読影 指導医と画像検査 の読影 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	病棟入院患者の診療 受持ち患者の電気 生理検査 指導医と脳波読影 指導医と画像検査 の読影 リハビリ、看護師、社 会福祉士を含めた 多職種カンファレン ス 火曜日回診・カン ファレンスの補完 (学会発表の予演会 等行うこともある)	病棟入院患者の診療 受持ち患者の電気 生理検査 指導医と脳波読影 指導医と画像検査 の読影 抄読会 治療薬に関する勉 強会(不定期)	

【内分泌・糖尿病内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	小カンファレンス 朝回診 病棟業務	小カンファレンス 朝回診 病棟業務	小カンファレンス 朝回診 病棟業務	小カンファレンス 朝回診 病棟業務	小カンファレンス 朝回診 病棟業務	
午後	病棟業務 小カンファレンス 夕回診	病棟業務 カンファレンス 抄読会 夕回診	病棟業務 小カンファレンス 夕回診 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	病棟業務 小カンファレンス 夕回診	病棟業務 小カンファレンス 夕回診	

【膠原病・リウマチ内科 一例】

	月	火	水	木	金	土・日
午前	病棟診療/回診 リウマチ膠原病外来 院内コンサルテー ション	病棟診療/回診 リウマチ膠原病外来 院内コンサルテー ション	病棟診療/回診 リウマチ膠原病新患 外来 院内コンサルテー ション	病棟診療/回診 リウマチ膠原病新患 外来 院内コンサルテー ション	病棟診療/回診 リウマチ膠原病外来 院内コンサルテー ション	
午後	病棟診療/回診 リウマチ膠原病外来 リウマチエコー検査	病棟診療/回診 リウマチ膠原病外来 リウマチエコー検査	病棟診療/回診 第2・4週は内科カン ファレンス 第3週はCPC	病棟診療/回診 病棟カンファレンス 病棟勉強会	病棟診療/回診 リウマチ膠原病外来 リウマチエコー検査	

別表2 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数	
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2	
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1			
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1			
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1			3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上			3
	内分泌	4	2以上※2	2以上			3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上			
	腎臓	7	4以上※2	4以上			2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上			3
	血液	3	2以上※2	2以上			2
	神経	9	5以上※2	5以上			2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上			1
	膠原病	2	1以上※2	1以上			1
	感染症	4	2以上※2	2以上			2
救急	4	4※2	4	2			
外科紹介症例						2	
剖検症例						1	
合計※5		70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 ※3 (外来は最大7)	
症例数※5		200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専門研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる

(最大80症例を上限とすること、病歴要約への適用については最大14症例を上限とすること)

専攻医研修マニュアル

横須賀共済病院内科専門医研修プログラム

専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・P.1～7

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』

『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、高い倫理観を持ち、最新の標準的医療を実践し、安全な医療を心がけ、プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

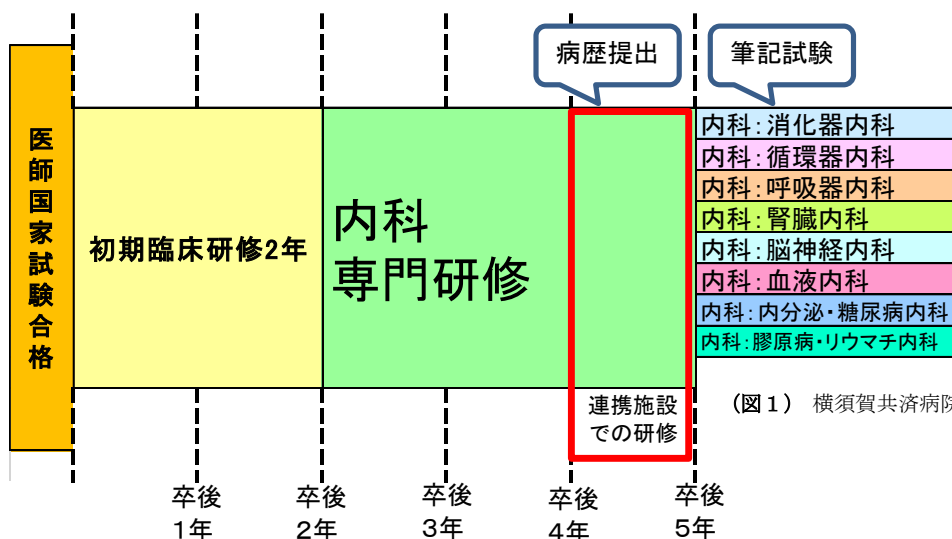
- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

本プログラム研修施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、神奈川県横須賀・三浦医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャリティ領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本プログラム研修施設群での研修が果たすべき成果です。

本プログラム修了後には、本プログラム研修施設群だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間



(図1) 横須賀共済病院内科専門研修プログラム (概念図)

研修期間3年間のうち、1年間以上、基幹施設である横須賀共済病院で専門研修を行います。

3) 研修施設群の各施設名

基幹施設	
横須賀共済病院	
連携施設	
総合病院土浦協同病院	JA とりで総合医療センター
秀和総合病院	草加市立病院
総合病院国保旭中央病院	柏市立柏病院
九段坂病院	虎の門病院
JCHO 東京山手メディカルセンター	同愛記念病院
東京都立墨東病院	東京共済病院
東京都立広尾病院	新渡戸記念中野総合病院
東京都立大塚病院	東京都立豊島病院
青梅市立総合医療センター	立川病院
武蔵野赤十字病院	東京都立多摩総合医療センター
国立病院機構 災害医療センター	東京科学大学病院
済生会横浜市東部病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
横浜南共済病院	横浜市立大学附属病院
衣笠病院	聖ヨゼフ病院
横須賀市立総合医療センター	平塚共済病院
横浜市立みなと赤十字病院	静岡市立清水病院
特別連携施設	
三浦市立病院	

4) プログラムに関わる委員会と委員

本プログラム管理委員会と委員名（「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム管理委員会」参照）

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門医研修評価）などを基に、研修施設を調整し決定します。開始・終了時期、継続性を問わず 6 か月間以上、連携施設、特別連携施設で研修を行います。（図 1.）参照

6) 本整備基準と研修カリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である横須賀共済病院診療科別診療実績を以下の表に示します。横須賀共済病院は地域基幹病院であり、コモンディゼーズを中心に診療しています。

表. 横須賀共済病院診療科別診療実績

2025年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1,983	31,068
循環器内科	3,307	33,071
内分泌・糖尿病内科	261	13,144
腎臓内科	521	13,290
呼吸器内科	1,106	26,043
脳神経内科	453	9,054
血液内科	708	12,531
膠原病・リウマチ科	106	3,537
救急科	1,284	17,147

- 膠原病・リウマチ領域は、現状では外来診療のみになりますが、連携施設および特別連携施設で症例数は補うことができます。代謝、内分泌領域の入院患者が少なめですが、外来患者診療を含め1学年8名に対し十分な症例を経験可能です。
- 8領域の専門医が1名以上在籍しています。（「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の「横須賀共済病院内科専門医研修施設群」参照）
- 剖検体数は2024年度5体、2025年度9体です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

サブスペシャリティ領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。

主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

○入院患者担当の目安（基幹施設：横須賀共済病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医1人あたり受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、サブスペシャリティ上級医の判断で5～15名程度を受持ちます。a.～h.までの8領域を、1か月～3か月毎にローテーションします。

- a. 消化器内科 b. 循環器内科 c. 呼吸器内科 d. 腎臓内科
e. 血液内科 f. 脳神経内科 g. 内分泌・糖尿病内科 h. 膠原病・リウマチ内科

※各領域の週間スケジュールについては、「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の別表1「週間スケジュール（例）」を参照

ローテーション例①内科標準タイプ

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	消化器			循環器			呼吸器			腎臓		
2年目	血液・膠原病リウマチ			神経			内分泌・糖尿病			消化器		
3年目	連携施設・特別連携施設での研修											

ローテーション例②サブスペシャルティ重点研修タイプ

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器		神経		腎臓		消化器		呼吸器		血液	内分泌・糖尿病
2年目	サブスペシャルティ研修											
3年目	サブスペシャルティ研修						連携施設・特別連携施設での研修					

* 研修の開始・終了時期、継続性は問わない。

ローテーション例③サブスペシャルティ並行研修タイプ

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器		神経		腎臓		消化器		呼吸器		血液	内分泌・糖尿病
	サブスペシャルティ研修											
2年目	循環器		神経		腎臓		消化器		呼吸器		血液	内分泌・糖尿病
	サブスペシャルティ研修											
3年目	サブスペシャルティ研修						連携施設・特別連携施設での研修					

* 研修の開始・終了時期、継続性は問わない。

【連携施設での研修について 連携施設・特別連携施設での研修（6ヶ月間以上）の組み合わせ例】

組み合わせ例 1	聖ヨゼフ病院 (3か月)	三浦市立病院 (3か月)	横浜南共済病院 (6か月)
組み合わせ例 2	衣笠病院 (3か月)	みなと赤十字病院 (9か月)	
組み合わせ例 3	横浜南共済病院 (6か月)		横須賀市立 うわまち病院 (3か月)
			東京医科歯科大学 附属病院 (3か月)

* 原則として、どのコースにおいても横須賀・三浦医療圏の施設での研修を含める。

ただし、専攻医の希望する研修が十分にできるよう、現場で協議し、臨機応変な対応を可能とする。

* 大学院等を目指す専攻医については、専攻医3年目の後半3か月に大学附属病院を研修先として選択できるものとする。

開始・終了時期、継続性を問わず6か月間以上、連携施設・特別連携施設での研修を行います。希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる評価などを基に研修施設を調整します。

- 各領域の研修達成度によっては、3か月以上のローテーションをすることも可能です。(最終的に修了要件を満たすことが重要です。)
 - 入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。次の診療科の担当になっても退院していない患者がいる場合、入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します。
- 連携施設、特別連携施設では、症例数が充足していない領域を重点的に研修します。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年複数回、自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了基準

- ① 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて、以下のi)~vi)の修了要件を満たすこと。
 - i) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全70疾患群のうち、通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで含むことができます)を経験し、内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録済みである。(「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の別表2「各年次到達目標」参照)
 - ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理(アクセプト)されている。
 - iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上ある。
 - iv) JMECC受講歴が1回ある。
 - v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に2回以上受講歴がある。
 - vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められている。
- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを本プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約1か月前に本プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設1年以上+連携施設・特別連携施設6か月間以上)としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

- ① 必要な書類
 - i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
 - ii) 履歴書
 - iii) 横須賀共済病院内科専門医研修プログラム修了証(コピー)

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

1 1) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従います。（「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の「横須賀共済病院研修施設群」参照）

1 2) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院である横須賀共済病院を基幹施設として、神奈川県横須賀・三浦医療圏、東京都及び近隣医療圏にある大学病院を含む連携施設、特別連携施設とで、内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は、3年間（基幹施設1年間以上+連携施設・特別連携施設6か月間以上）です。
- ② 本プログラムでは、症例のある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である横須賀共済病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディージェズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）と病診連携も経験できます。
- ④ 本プログラム研修施設群での専門研修（専攻医）2年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の別表2「各年次到達目標」参照）
- ⑤ 本プログラム研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、開始・終了時期、継続性を問わず6か月間以上、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 本プログラム研修施設群での専門研修（専攻医）3年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします。（「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の別表2「各年次到達目標」参照）少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。

1 3) 継続したサブスペシャリティ領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、サブスペシャリティ診療科外来（初診を含む）、サブスペシャリティ診療科検査を担当します。結果として、サブスペシャリティ領域の研修につながるこ

とはあります。

- ・ カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

1 4) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年複数回行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が開覧し、集計結果に基づき、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

- #### 1 5) 本プログラム研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
- 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

指導医マニュアル

横須賀共済病院内科専門医研修プログラム

指導医マニュアル・・・・・・・・・・P.1~2

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』

『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1人の担当指導医に専攻医1人が本プログラム研修委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認をします。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での専攻医による症例登録の評価や臨床研修管理部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャリティの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャリティの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医はサブスペシャリティ上級医と協議し、知識、技能を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時まで合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2) 専門研修の期間

- 年次到達目標は、「横須賀共済病院内科専門医研修プログラム」の別表2「各年次到達目標」に示すとおりです。
- 担当指導医は、臨床研修管理部と協働して、3か月ごとに日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床研修管理部と協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床研修管理部と協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、臨床研修管理部と協働して、毎年複数回自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医はサブスペシャリティ上級医と十分なコミュニケーションを取り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている

と第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。

- ・主担当医として適切に診療を行っているとは認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での当該当症例登録の削除、修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・本プログラム研修施設群とは別の日本内科学会査読委員によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医が受理（アクセプト）されるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握する。担当指導医と臨床研修管理部はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた無記名式逆評価の集計結果を担当指導医、施設の研修委員会、および本プログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立っています。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時で日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に本研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

横須賀共済病院給与規定によるものとします。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し、形成的に指導します。

10) 本プログラム研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。